追加資料

議論する事業

1．事前評価がC評価の事業

① 記念樹配布事業	鈴鹿市	・・・1

2．事前評価がＢ，Ｃ評価の境の事業

② 森林環境教育推進事業	度会町	・・・１１
③ 緑の未来づくり事業	鈴鹿市	・・・１７

3．事前評価がＡ，Ｂ評価の境の事業

④ みんなの里山整備活動推進事業	伊賀市	・・・２７
⑤ 集落周辺森林（里山）整備事業	紀北町	・・・３３
⑥ 森と緑の生涯学習講座	鈴鹿市	・・・３９
⑦ 津市森林環境教育事業	津市	・・・４５
⑧ クップ普及推進事業	尾鷲市	・・・５１
⑨ 森と緑の環境教育事業	紀宝町	・・・５７
⑩ 病院備品等購入事業	桑名市	・・・６３
⑪ 市庁舎木質化事業	伊賀市	・・・７１
⑫ 森林公園等環境活用整備事業	名張市	・・・８５

平成30年度みえ森と緑の県民税市町交付金事業

1．事前評価がC評価の事業

①記念樹配布事業
（鈴鹿市）

議論する事業　①

1）　評価委員の事前評価　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（資料2-2　P3-39）

対策区分	事業名	市町名	事前評価の内容		
			有効性	効率性	公益性
3	記念樹配布事業	鈴鹿市	B (2.9)	B (2.8)	**C (2.5)**

2）　評価委員の事前評価と意見

有効性

評価	評価委員のコメント
4	
3	・記念樹から森林にどう想いを馳せるのか、もう少し事業にストーリー性があるとよい。
2	・無償で配布された苗が大切に育てられているのか？
1	・配布後の植樹の事実の確認やその後の定期的な管理状況の調査の必要性など、以前に指摘された点が改善されておらず、効果の持続性に疑問が残る。

効率性

評価	評価委員のコメント
4	
3	
2	・一者見積もりとなっている。 ・昨年この事業の配布樹種について質問が出て回答があったが今年の記載で改善されていない。
1	

公益性（波及度）

評価	評価委員のコメント
4	
3	
2	・アンケートの内容が知りたいです。 ・継続の有無が不明のため。 ・植樹と森づくり、森の手入れ、森の利用などバラバラではなくその関連について考えて欲しい。
1	・住民の森づくりへの意識の醸成のためにも外来種ではなく在来種を配布すべきだという指摘が以前あったにもかかわらず、依然としてライラック等の外来種が配布されていることが理解できない。

平成　30　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市

番号	区分	事業名
4	基本	記念樹配布事業
事業費	159,000 円(うち交付金　159,000 円 うち基金活用　0 円)	

4. 効率性

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
市が購入し，植木まつり期間中に対象者へ配布した。

【実施方法の選定理由】
記念樹に適した木を選定し，購入した。

【契約方法と落札率または補助率等】
随意契約(記念樹:1者見積)

【契約相手方の選定理由】
市の規程により，合計金額10万円以上のものは複数者見積を行い，価格の安いところを契約相手として選定した。

【事業費の積算根拠】
見積価格を参考とした。

5. 公益性（波及度）

【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】
記念樹を配布した人及びその家族を受益者とした。

【管理責任者（森林所有者）への対応】
森林整備等でなく，該当しない。

【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】
個人が所有する森林等の整備ではなく，該当しない。

6. 周知実績と今後の周知

【実施前の実績】
イベントチラシ等に，県民税活用事業である旨を記載した。

【実施中の実績】
記念樹配布の際に，記念樹の意味と県民税活用事業である旨を記載した用紙を配布し，県民税活用事業であることを周知した。また，アンケートを実施することにより，森林への意識醸成が図られた。

【実施後の実績】
ロゴマーク入りの木製プレートを，配布する記念樹に掛け，税事業であることをPRした。

【今後の見込】
人の成長と共に，木が成長し，身近な場所で緑を感じられることで，今後の森林への興味と理解が深まり，記念樹にかけたプレートが，県民税への周知につながると考える。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

第6号様式（その3）

平成　30　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市

番号	区分	事業名
4	基本	記念樹配布事業
事業費	159,000 円(うち交付金　159,000 円 うち基金活用　0 円)	

1. 事業の目的

近年，手入れが困難等の理由により，庭木の植栽離れが進み，一番身近な環境である家庭において緑を感じられる機会が少なくなっている現状から，植物に対する愛着をもち，緑の大切さを伝えるため，記念樹を配布し，入学等の人生の節目に自らの手で植樹をしてもらうことで，森林環境教育の効果と市内の緑化推進を図る。

2. 事業実績概要

【事業内容】

人と緑の交流を目的として開催されている「植木まつり」会場において，新築，入学等の人生の節目に記念樹を配布する。記念樹の生産者が植栽方法や手入れ方法について直接レクチャーし，家庭で愛着をもって正しく植樹を行うことで，森林環境教育の効果を期待するとともに，適切な管理方法を伝えることで長期にわたる市内緑化推進の効果を期待する。また，記念樹には三重県産スギで作成したロゴマーク入りのプレートをかけ，裏面に森林に対する思い等のメッセージを記載していただき，森林への関心の増加を図る。さらに，県民税及び森林の適正管理に関する事項をアンケート形式で回答していただき，県民税の周知と森林環境に関する理解を深める取り組みを行う。

【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】

鈴鹿市

【補助率等】

補助事業でなく。該当しない。

【箇所数】

1箇所（鈴鹿フラワーパーク）

【事業量】

159本

【事業実施期間】

平成30年4月14日～22日

【受益者、参加者、利用者数等】

159家族（約500名）

3. 有効性

【実施箇所の選定理由】

「植木まつり」は生産者自らが記念樹の配布を行うことで，受益者の木に対する愛着がさらに深まることが期待できること加えて，正しい植栽方法等をレクチャーできることから，長期にわたる適正な管理を促すことができる。また，1万5千人以上の人が集まるイベント会場において実施することにより，直接の受益者以上に，波及効果を見込めると考える。

【実施した効果】

記念樹を自らの手で，一番身近な環境である家庭において植樹をすることで，森林環境教育の効果を期待するとともに，長期にわたる管理で，市内の緑化推進を図る。

【実施箇所の今後の管理体制】

整備事業等でなく，該当しない。配布した記念樹は，各家庭で受益者が管理する。

【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】

苗木の配布と同時に森林に関するアンケートを実施し，森林作りへの意識醸成が図られた。

【実施内容に対する住民等の反応】

二年前に，姉の入学祝いとして庭に植樹した記念樹があり，今年は妹が小学校入学となるため，その横に植樹するために配布を受けに来た。子どもの成長と共に，木が成長し，緑に対する愛着がわいた。という感想があった。

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市
事業名	記念樹配布事業		

7. 写真

写真1

事前広報

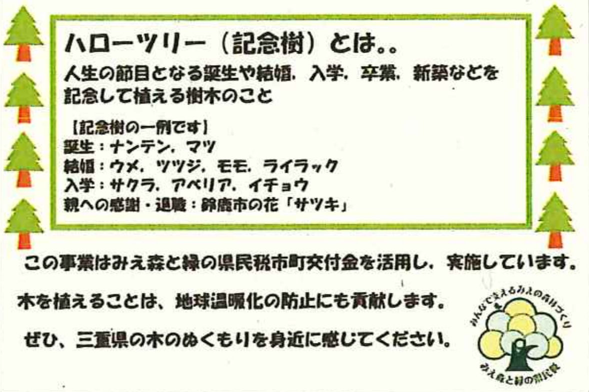


写真2

実施中広報

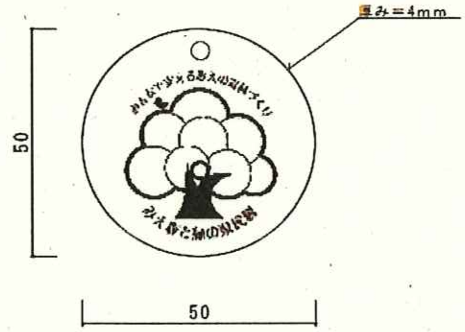


写真3

木製プレートイメージ

写真4

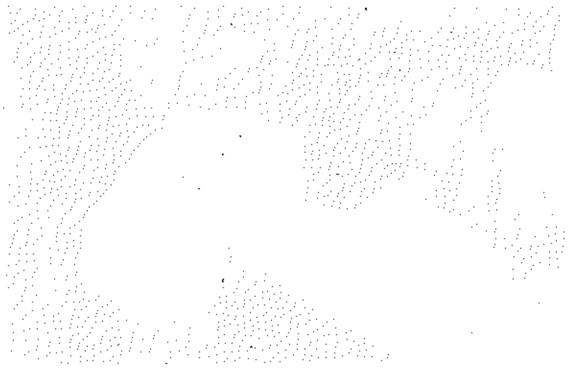
木製プレート記入風景

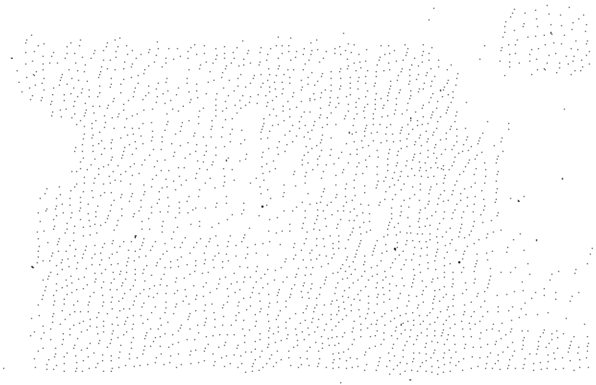
写真5

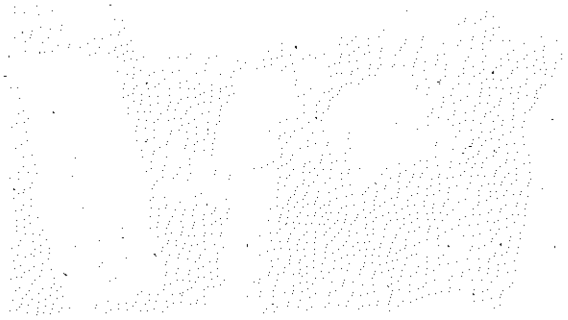
記念樹配布

写真6

受付







平成 31 年度みえ森と緑の県民税事業「記念樹配布事業」実施結果

○内容

鈴鹿市内在住の方で，かつ今年 4 月に小学校・中学校・高校に入学された方及び 1 年以内に新築・出生・結婚した方を対象に記念樹（ハローツリー）の配布を実施した。

受付の際，「みえ森と緑の県民税」事業周知と森林及び木材利用への考え方を把握するため，三重県が作成した「みえ森と緑の県民税」チラシを配布し，アンケートを実施した。また今年度から，追跡調査への協力依頼も併せて実施した。

○日程

平成 31 年 4 月 13 日(土)・14 日(日)・20 日(土)・21 日(日)　各日先着 50 名（合計 200 本）

○場所

鈴鹿フラワーパーク（第 43 回鈴鹿市植木まつり本部テントにて配布）

○配布樹種・人数

	樹　種	小学校入学	中学校入学	高校入学	新築	出生	結婚	合計
13 日(土)	ヒラドツツジ	21 名	7 名	0 名	10 名	11 名	1 名	50 名
14 日(日)	千両	18 名	12 名	1 名	3 名	14 名	2 名	50 名
20 日(土)	オオデマリ	12 名	8 名	3 名	8 名	13 名	3 名	47 名
21 日(日)	オオデマリ	18 名	6 名	1 名	12 名	15 名	1 名	53 名

○追跡調査協力承諾者数　107 名（53.5%）

（追跡調査協力依頼の用紙）

受付No.

ハローツリープレゼント　4月14日

お名前

ご住所　鈴鹿市

お祝い事　小学校入学・中学校入学・高校入学

新生・結婚・新築

追跡調査に協力　できる・できない

※該当するものに○をしてください。

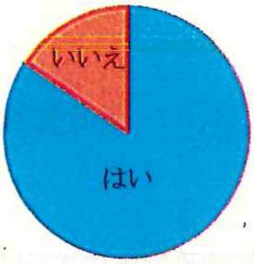
協力いただける場合　ご連絡先

平成31年度「記念植樹配布事業」におけるみえ森と緑の県民税にかかる市民アンケート結果

実施年月日：平成31年4月13日、14日、20日、21日　記念樹配布200本
実施場所　：鈴鹿フラワーパーク 「植木まつり」会場　アンケート[illegible]200枚
アンケート[illegible]173枚　（回収率86.5%）

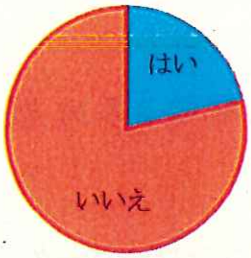
1 ハローツリーのプレゼントを行っていることを知っていた。

回答	人数（人）	割合（%）
はい	146	84.4
いいえ	27	15.6



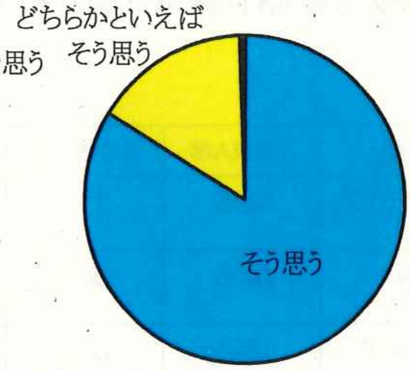
2 この事業に「みえ森と緑の県民税」を使っていることを知っていた。

回答	人数（人）	割合（%）
はい	37	21.4
いいえ	136	78.6



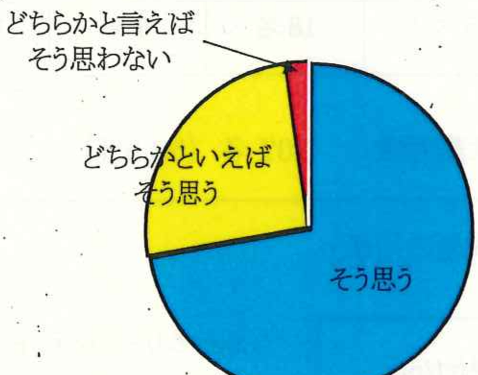
3 安全，快適に暮らすためには，森林の手入れが大切だと思う

回答	人数（人）	割合（%）
そう思う	145	83.8
どちらかといえば思う	27	15.6
どちらかといえば思わない	0	0.0
そう思わない	1	0.6



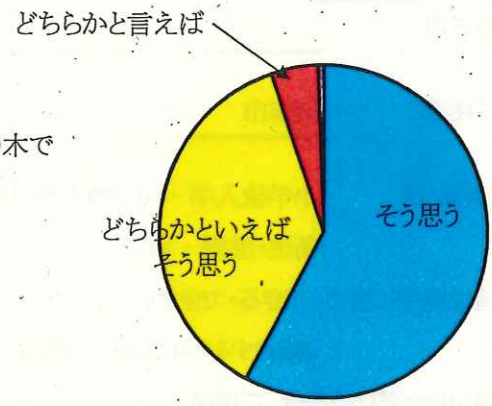
4 木を使うことは森林の手入れにつながると思う

回答	人数（人）	割合（%）
そう思う	125	72.3
どちらかといえば思う	44	25.4
どちらかといえば思わない	4	2.3
そう思わない	0	0.0



5 三重県の森林のために，今後はできるだけ三重県の木でできたものを買おうと思う

回答	人数（人）	割合（%）
そう思う	100	57.8
どちらかといえば思う	64	37.0
どちらかといえば思わない	8	4.6
そう思わない	1	0.6



平成30年度みえ森と緑の県民税市町交付金事業「記念樹配布事業」実施結果

○内容

鈴鹿市在住で，新築・結婚１年未満の方と今年小学校・中学校・高校に入学された方に，記念樹をプレゼント。配布の際，森林への意識醸成のため，アンケートを実施

○日程

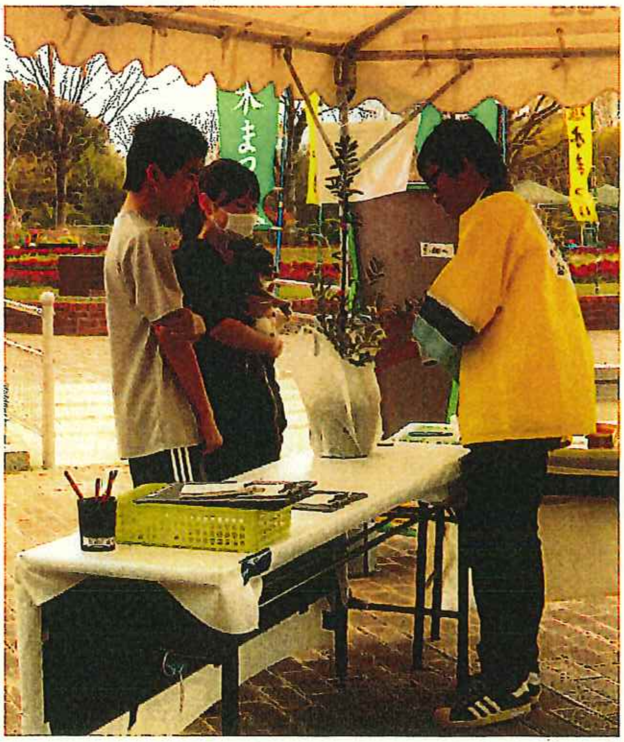
平成30年　4月14日(土)・15日(日)・21日(土)・22日(日)　各日先着100名

○場所

鈴鹿フラワーパーク（鈴鹿市植木まつりにおいて）

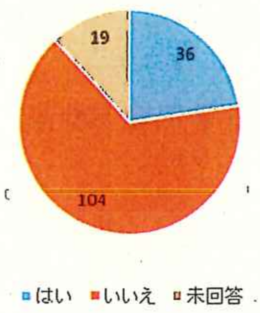
○配布樹種・人数

	樹種	新築	結婚	小学校入学	中学校入学	高校入学	合計
14日(土)	コルディリネレッドスター	14名	1名	20名	11名	4名	50名
15日(日)	庭桜＆ユキヤナギ	13名	2名	21名	10名	4名	50名
21日(土)	ミツバツツジ	12名	0名	7名	6名	2名	27名
22日(日)	ミツバツツジ	10名	3名	10名	6名	3名	32名

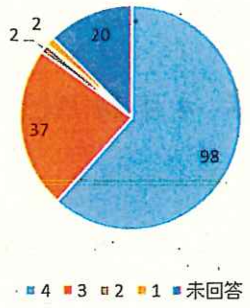


平成30年度みえ森と緑の県民税市町交付金事業「記念樹配布事業」実施結果

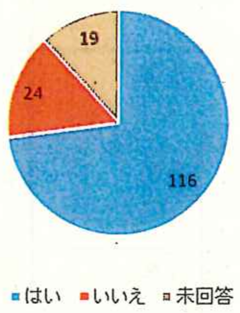
○ この事業にこの税を使っていることを知っていた



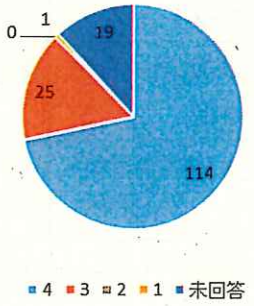
○ 木を使うことは森林の手入れにつながると思う



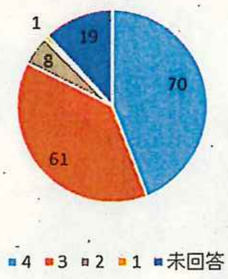
○ ハローツリーのプレゼントを行っていることを知っていた



○ 安全、快適に暮らすためには、森林の手入れが大切だと思う



○ 三重県の森林ために、今後できるだけ三重県の木でできたものを買おうと思う



平成30年度みえ森と緑の県民税市町交付金事業

2．事前評価がB・C評価の境の事業

② 森林環境教育推進事業

（度会町）

議論する事業 ②

1） 評価委員の事前評価 （資料2-2 P6-46）

対策区分	事業名	市町名	事前評価の内容		
			有効性	効率性	公益性
3	森林環境教育推進事業	度会町	B(3.1)	**B(2.7)**	B(3.0)

2） 評価委員の事前評価と意見

有効性

評価	評価委員のコメント
4	
3	
2	
1	

効率性

評価	評価委員のコメント
4	
3	・事業費が比較的少額であり、報告等の事務手続き的なコストまで考えると、敢えて本交付金事業で実施するよりも町の自主財源で実施した方がコストパフォーマンスは良いのではないだろうか。
2	・一者の随意契約。 ・1回で約10万円はちょっと高い？（事業費の内訳がわからなかったので） ・1回の事業量としては高いのではないかと思う。 ・どのような内容を実施されたのか記載されたい。
1	

公益性（波及度）

評価	評価委員のコメント
4	
3	
2	
1	

平成　30　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	度会町

番号	区分	事業名
1	基本	森林環境教育推進事業
事業費	97,416 円(うち交付金 97,400 円 うち基金活用 円)	

4. 効率性

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
委託

【実施方法の選定理由】
業者が実施することで、専門的な知見から適切な教育を実施できるため。

【契約方法と落札率または補助率等】
随意契約

【契約相手方の選定理由】
林業事業体であり、近隣市町での実績があるため。

【事業費の積算根拠】
参考見積

5. 公益性（波及度）

【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】
73名（小学3年生児童）

【管理責任者（森林所有者）への対応】
森林等の整備ではなく該当しない。

【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】
教育の実施であり、転用等が想定されず該当しない

6. 周知実績と今後の周知

【実施前の実績】
町ホームページに掲載

【実施中の実績】
授業実施中、のぼりを掲示

【実施後の実績】
広報および伊勢新聞に掲載

【今後の見込】
今後も継続的に実施し、森林環境教育の推進に努める。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

第6号様式（その3）

平成　30　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	度会町

番号	区分	事業名
1	基本	森林環境教育推進事業
事業費	97,416 円(うち交付金 97,400 円 うち基金活用 円)	

1. 事業の目的

町や山林の将来を担う子供たちの森林・林業への関心を高め、森や緑の大切さについての理解を深める。

2. 事業計画概要

【事業内容】
小学3年生を対象に森林・林業に関する出前授業を実施

【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】
度会町

【補助率等】
補助事業ではなく、該当しない

【箇所数】
1箇所(度会小学校)

【事業量】
1回

【事業実施期間】
平成31年2月14,15日

【受益者、参加者、利用者数等】
受講者　73人

3. 有効性

【実施箇所の選定理由】
小学生に森林・林業へ関心を持つきっかけを作り、森や緑の大切さについての理解を深めるため

【実施した効果】
木や森と接する機会が少ない現代の子供たちにとって、貴重な教育であり、森林に興味を持つ良い機会となった。

【実施箇所の今後の管理体制】
施設等の整備ではなく該当しない

【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】
今後も継続的に実施し、子供のうちから森や緑の大切さについて理解を深める。

【実施内容に対する住民等の反応】
児童からは山について、知識が深まったと回答を得ている。

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	度会町
事業名	森林環境教育推進事業		

7. 写真

写真1

実施状況①

写真2

実施状況②

写真3

実施状況③

写真4

実施状況④

写真5

写真6

森林環境教育推進事業について

①授業を受けた３年生は 73 名。学級ごとに実施。

②1 日目（2/14）　３Ａ：1 限目、2 限目　３Ｂ：3 限目、4 限目
　2 日目（2/15）　３Ｃ：1 限目、2 限目

【内容】・・・同じ内容を各クラスで実施

◆森のせんせいのお話し
　森のはたらきの説明（生態系、自然災害、光合成等について）
　木の成長の説明（成長と年輪について）
　木の価値の説明（強くてきれいな板にするための作業について）

◆木の特徴を知る
　丸太等の木材を各班に配り、触れたり、においを嗅いだり、年輪を確認したりする

◆木のキーホルダー作り
　森のせんせいから紙やすりの使い方を学ぶ
　木の種類によって色や匂いが違うことを知る
　木に文字や絵を描くことができることを学ぶ

③経費 97,416 円
　内訳
　講師料一式　40,000 円
　丸太・枝等資材料　32,000 円
　キーホルダー・サンドペーパー経費　10,000 円
　管理費　8,200 円
　消費税　7,216 円

④随意契約の理由
　森林の有する公益的機能や木材に関する専門知識があり、実績のある講師を選定。
　また、町会計規則により 2 社以上の者から見積書を徴すべき金額よりも少額であるため、1 者による随意契約とした。

平成30年度みえ森と緑の県民税市町交付金事業

2．事前評価がB・C評価の境の事業

③緑の未来づくり事業
（鈴鹿市）

議論する事業 ③

1） 評価委員の事前評価 （資料2-2 P3-36）

対策区分	事業名	市町名	事前評価の内容		
			有効性	効率性	公益性
5	緑の未来づくり事業	鈴鹿市	B (2.8)	B (2.8)	**B (2.7)**

2） 評価委員の事前評価と意見

有効性

評価	評価委員のコメント
4	
3	
2	・森林教育事業は有効性があるものの、松くい虫の除去についてはこの事業に含めてもよいものか。（例えば対策区分２？） ・森林環境教育と松くい林の特別伐倒駆除を一緒の事業としているがその関係性が資料からは読み取れない。
1	

効率性

評価	評価委員のコメント
4	
3	
2	・森林教育事業は効率性があると評価できる。 ・森林環境教育と松くい林の特別伐倒駆除を一緒の事業としているがその関係性が資料からは読み取れない。
1	

公益性（波及度）

評価	評価委員のコメント
4	
3	
2	・森林教育事業は公益性があると評価できる。 ・公費の助成なく個人で適正に庭木等を管理している多くの県民との不公平感が出ないような配慮（当該私有地は公開空間として周辺住民に開放させる等）が必要ではないだろうか。 ・森林環境教育と松くい林の特別伐倒駆除を一緒の事業としているがその関係性が資料からは読み取れない。
1	

平成　30　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	鈴鹿市

番号	区分	事業名
3	基本	緑の未来づくり事業
事業費	211,496 円(うち交付金 157,000 円 うち基金活用 0 円)	

4. 効率性

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
補助

【実施方法の選定理由】
私有地は個人が管理するのが前提であるが，処理費用がかさむため，これまではなかなか対処が進まず，周辺の健康木へも影響を及ぼしていた。そのため，一部補助という方法で，あくまで住民主体で森林保全を行うことを目指した。

【契約方法と落札率または補助率等】
補助対象経費の合計額に4分の3を乗じた額(上限額10万円)

【契約相手方の選定理由】
枯松伐採については，実施主体が2社以上の業者から見積をとり，安価な者と実施主体の市民が契約した。

【事業費の積算根拠】
見積書等による。

5. 公益性（波及度）

【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】
森林環境教育：実施主体1団体，参加者50名
枯松伐採：市民1名，南若松町周辺住民846世帯1,737名にも波及

【管理責任者（森林所有者）への対応】
森林所有者個人による対応が困難であり，病害虫被害拡散を防ぐため経費の一部を市が負担した。

【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】
森林環境教育は整備ではないので該当しない。また，枯松伐採は周辺の健康木への影響を防ぐものであり，再植栽を前提としていないため該当しない。

6. 周知実績と今後の周知

【実施前の実績】
事業募集時に，広報等で税活用事業である旨を記載した。

【実施中の実績】
実施中に，県民税事業である旨を参加者に説明した。

【実施後の実績】
実施団体のホームページで，県民税を活用した旨を記載してもらった。

【今後の見込】
来年度の事業申請を広報する際に，「みえ森と緑の県民税」事業であることを併せて周知する。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

第6号様式（その3）

平成　30　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	鈴鹿市

番号	区分	事業名
3	基本	緑の未来づくり事業
事業費	211,496 円(うち交付金　157,000 円 うち基金活用	0 円)

1. 事業の目的

自然環境の保全，木に触れ合う機会の提供，森林環境教育等を実施する住民団体や，私有地の森林を適正に管理しようとする個人又は団体等に対し，その活動に要する経費の一部を補助することにより，住民による自発的な森林づくり活動を支援するとともに，住民が木に触れ合う機会を創出し，森林を大切に思う心の育成に繋げる。

2. 事業実績概要

【事業内容】
森林環境の保全や，森林を市民で守り育てる意識の醸成に寄与する活動(県産材を使った子ども向けの木工工作教室)，及び，地区保全森林内の病害虫被害木を適正に管理しようとするものに対し，補助金を交付した。

【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】
申請団体(構成員の半数以上が市内に在住する団体に限る。)，及び，病害虫被害木の所有者又は管理者

【補助率等】
補助対象経費の合計額に4分の3を乗じた額(上限10万円)

【箇所数】
2箇所
森林環境教育事業:鈴鹿市白子町
枯松の伐採:鈴鹿市南若松町

【事業量】
森林環境教育事業:1団体
松くい虫被害松の特別伐倒駆除:1人(6本)

【事業実施期間】
森林環境教育事業:平成30年8月
枯松の伐採:平成30年4月

【受益者、参加者、利用者数等】
森林環境教育事業:実施主体1団体，参加者50名
枯松伐採:市民1名，南若松町周辺住民846世帯1,737名にも波及

3. 有効性

【実施箇所の選定理由】
里山整備・環境教育事業については，市内全域を対象としている。
枯松の伐採補助については，地区保全森林に指定されている箇所に限っている。

【実施した効果】
環境教育事業については，地域団体が主体となり，県産材や県民税の説明を交えねがら工作することで，森林環境教育を実施した。枯松の伐採補助については，周辺の松に対する森林病害虫の被害拡散防止になったことに加え，海岸堤防道路の景観が改善された。

【実施箇所の今後の管理体制】
実施主体が管理を行う。

【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】
枯松伐採については，実施主体が継続的に管理を行い，森林環境教育は，実施団体が今後も継続していく考え。

【実施内容に対する住民等の反応】
森林環境教育の参加者は，本棚が完成した際に，木材で加工された製品の良さを肌で感じ，これからも大切にしたいとの声があがった。また，枯松伐採を実施した市民からは，周辺の松へ影響拡大を懸念していたが伐採費用が高額であるため躊躇していたが，補助金があったおかげで，伐採を決断できたとの声があった。

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	鈴鹿市
事業名	緑の未来づくり事業		

7. 写真

写真1

枯松伐採前

写真2

枯松伐採後

写真3

森林環境教育事業（木工工作教室）

写真4

森林環境教育事業（広報状況）

写真5

写真6

森林病害虫等防除法第7条の5第2項の規定に基づく高度公益機能森林等の区域の変更について

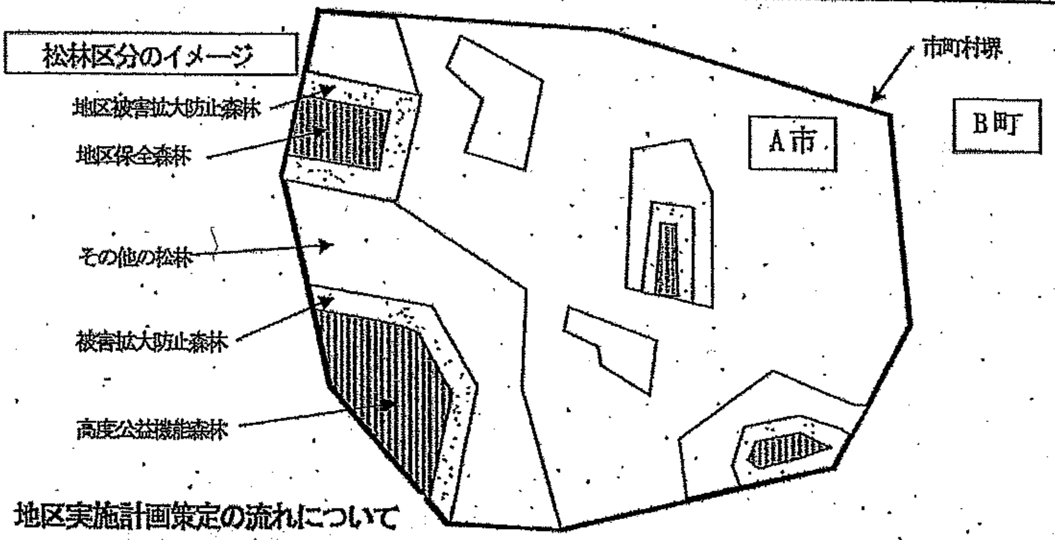
1 対策対象松林について

松くい虫の被害対策については、森林病害虫防除法第7条の5に基づき、都道府県知事が指定を行う森林と、市町村が同法第7条の10に基づき、地区実施計画として指定を行う森林がある。

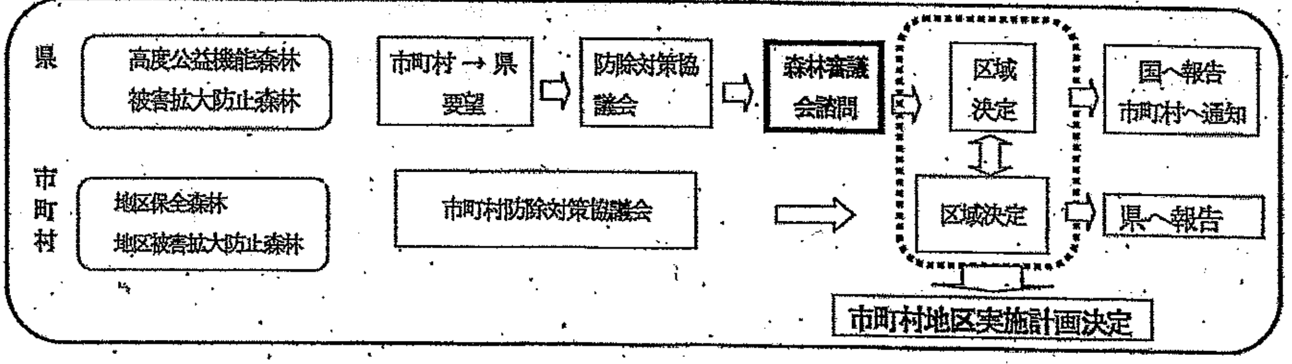
地区実施計画は、毎年の被害動向等を踏まえて区域の見直しを行っており、県が指定を行う「高度公益機能森林」及び「被害拡大防止森林」についても、一体的な対策を進めるため、防除対策を行う市町村より区域の変更要望が提出されており、これを踏まえ保安林区域等について指定の変更を行い、それぞれの区分に応じた防除方法を組み合わせ、効果的な対策を推進する。

松林区分について　（庭木や街路樹、墓地等の単木の場合は除く）

区分			指定の考え方
対策対象松林	守るべき松林	高度公益機能森林（県） 地区保全森林（市町村）	松以外の樹種では当該森林の機能が確保できないため、松林として維持すべき森林。保安林や急傾斜地、景観上重要な場所、マツタケ発生地などを指定している。
対策対象松林	周辺松林	被害拡大防止森林（県） 地区被害拡大防止森林（市町村）	「守るべき松林」の周囲において、対策を行わない「その他の松林」から「守るべき松林」へのマツノマダラカミキリの飛来を軽減させるための、緩衝帯的な役割を果たす松林。樹種転換の実施を基本とする。
その他の松林			松以外の樹種でも森林の機能の発揮が確保できるため、自然遷移により樹種転換を図る松林。



2 地区実施計画策定の流れについて



三重県松くい虫被害対策事業推進計画・松林等総括表

事務所	市町村番号	市町	高度公益森林 林班・小班	面積(ha)	被害拡大防止森林 林班・小班	面積(ha)	県計画面積計(ha)	地区保全森林 林班・小班	面積(ha)	地区被害拡大防止森林 林班・小班	面積(ha)	市町計画面積計(ha)	県・市町計画面積合計(ha)
四日市	1	桑名市	2031-ア-67	4	多度山		4						4
	2	いなべ市	2005-ア-19~33、37~40 2005-ア-42-1~42-2、 2005-イ-5~6、8、9、14~21 2005-イ-23~52、56~115、117 3016-ア-12	47	員弁大池 千賀渓(大安町)		47	3003-カ-28	1			1	48
	3	鈴鹿市			千代崎海岸 鼓ヶ浦海岸・磯山			25-ア-1~15、18~21、25、29 25-ア-34、35、37 25-イ-27、南若松町 25-イ-8、寺家三丁目、東江島町 47-カ-2、3	9			9	9
	4	亀山市	2126-ア-3 2125-イ-7	13	関町 観音山		13	1025-ウ-1~11	15			15	28
四日市管内合計				64	亀山市 明星ヶ岳		64		25			25	89
津	5	津市						3007-イ-14-1、14-2、23、23-1、24、24-3 3010-オ-55~60 河芸町上野字上芦原、同字下芦原 影重字下洲原 香良洲町字高砂	7			7	7
津管内合計									7			7	7
松阪	6	明和町	8-7-20 10-ア-201~211、244~248 10-ア-253~255-5	6	大←吹井ノ浦、大堀川海岸	2	8	大淀、東浜田町野	2			2	~~8~~ 10 H21年度追加
松阪管内合計				6		2	8						8
伊勢	7	伊勢市	1107-ア-183、184、189~198、229 1108-ア-1、2-1、2-2、北浜海岸 2009-オ-8 2012-ア-1、2、17、20 2012-イ-3-1、6~32、34、42~51 2012-イ-53~69 2012-エ-1、8、12、15、16、18~20 2012-エ-22、23、25、27 2012-オ-1~52、57~78、79、 2012-オ-80~118、122 2012-カ-1-1~10、12~80 二見浦公園	40	2012 北浜海岸 東大淀町→海岸 二見浦	1	41	1107-ア-98、103~119、121、123~127 1107-ア-129、133~137、139 1107-ア-140~145	8			8	49
	8	鳥羽市	30-ア-19、24、24-1、24-2 30-ア-31~32-1、35~36-1 30-ア-38、39、八代神社 13-ウ-3、4、5	11	神島 三ッ島		11						11
	9	志摩市	4003-ア-5-1、イ-2、横山 4018-ア-1~3、イ-1、天童 4021-エ-3、安乗崎 4029-ア-1~2-3	26	横山、天童島、安乗崎 国府白浜		26						26
伊勢管内合計				77		1	78		8			8	86
熊野	10	熊野市	1089-イ-54、62~69、71~73 1089-イ-75~79、81、83~87	2	有馬 松林(七里御浜)		2	有馬町花の窟神社 井戸町獅子岩	1			1	3
熊野管内合計				2			2		1			1	3
三重県合計				149		3	152		41			~~41~~ 43	~~193~~ 195 H21年度追加

1　松くい虫被害対策の実施方針

(1) 被害対策の基本的な考え方

本県の松林は、約２万９千ヘクタールと県下民有林面積の約８パーセントを占め、その殆どが海岸部及び都市に近接する丘陵地帯に分布している。それら松林の一部は、人々の生活や文化と深く結びつき、水源涵養、土砂流出の防備、保健、海岸の防風、飛砂防備等機能の高い森林で、県土の保全や生活環境保全に重要な役割を果している。また景勝地、観光地では、日本を代表する樹種として、古くから親しまれている。

本県のマツノマダラカミキリの媒介する材線虫により松が枯死する松くい虫被害の発生は、平成１８年９月末現在１８市町に及んでおり、現在、県内全域で被害が発生している状況である。被害材積の推移は、昭和５１年度以降急激に増加し、昭和５６年度に７万２千立方メートルとピークになり、その後防除推進の効果等により年々減少傾向を示し、平成１１年度には８千４百立方メートルまで減少したが、平成１２～１３年度には春から夏にかけての高温小雨の影響により９千８百立法メートルと被害が増加した。

平成１４年度以降は再び減少傾向を示し、平成１７年度末には７千７百立方メートルとなりピーク時の１１パーセントまで減少したが、平成１２～１３年度のように気候によっては被害が増加することも考えられることから、依然として予断を許さない状況にある。

このことから、第２次三重県松くい虫被害対策事業推進計画に引き続いて、森林病害虫等防除法（以下「防除法」と言う。）に基づき、保安林等高度な公益機能を有する松林を「高度公益機能森林」に指定、また松くい虫被害が高度公益機能森林へ拡大することを防止するために防除が必要な松林を「被害拡大防止森林」に指定し、保全すべき松林をさらに特定して拠点的な防除対策を実施する。

また被害を防止するには、市町、森林所有者等による自主的な被害対策が行われることなど、地域ぐるみの取り組みが必要と考えられることから、防除法に基づき、県で「地区防除指針」を定めて、市町が樹立する被害対策計画である「地区実施計画」の指針とし、地区実施計画では、市町における保全すべき松林を「地区保全森林」及び「地区被害拡大防止森林」に指定して、市町における保全すべき松林を特定して、防除対策を実施する。

このように、防除法による防除体系に基づいて、県及び市町における保全すべき松林を対象に、森林病害虫等防除事業等により、被害対策を総合的かつ計画的に推進するものとする。

（2）対策対象松林の概況と松林区分ごとの被害対策の実施方針

本県の被害対策対象松林の総面積は１９３ヘクタールであり、その内高度公益森林は、県下８市町に土砂流出の防備、保健休養、景勝地・観光地としての風致機能、海岸部の飛砂・防風機能が高く、樹種として松が主にその機能を果たしていると認められる森林１４９ヘクタールを指定している。

被害拡大防止森林は、１市１町において、高度公益機能森林に近接し、松の混交割合が高く、高度公益機能森林を保全するため一体的に松くい虫防除を行う必要があると認められる森林として、３ヘクタールを指定している。

市町が地区実施計画に定める地区保全森林は、高度公益機能森林の保全を図り、あるいは地域における防風、保健休養等の高度な機能があり、自主的に防除を推進する必要があると認められる松林であり、６市において４１ヘクタールが設定されている。

ア、高度公益機能森林

高度公益機能森林では、薬剤の地上散布、樹幹注入による予防措置の実施に重点におき、また被害木が発生した場合にはまん延を徹底的に防止するため、被害木を伐採して、破砕または焼却する特別伐倒駆除、または薬剤散布または薬剤くん蒸処理する伐倒駆除を実施する。

イ、被害拡大防止森林

被害拡大防止森林では、高度公益機能森林への被害の発生源にならないように、伐倒駆除等の発生源除去を目的とした駆除措置の実施を重点におき、発生源除去の視点から有効な場合には、地上散布等予防措置を実施する。

また、被害の状況から薬剤防除の限界を考慮し、その森林に適合する林相、樹種等を見極めて、樹種転換を図ることにも努める。

ウ、地区保全森林

市町の指定する地区保全森林では、市町により保全すべき松林として、地域の生活環境等実情に応じ、被害のまん延を防止するため伐倒駆除等駆除措置を重点に、地上散布、樹幹注入の予防措置を効果的に組み合わせ実施する。

エ、地区被害拡大防止森林

地区被害拡大防止森林では、高度公益機能森林及び地区保全森林に被害を及ぼす松くい虫の発生源にならないように防除を行う森林として、イ、に準じて防除、樹種転換を実施する。

なお、市町別の対策対象松林の面積は、表１のとおりである。

平成30年度みえ森と緑の県民税市町交付金事業

3．事前評価がA・B評価の境の事業

④ みんなの里山整備活動推進事業
（伊賀市）

議論する事業 ④

1） 評価委員の事前評価 （資料2-2 P7-41）

対策区分	事業名	市町名	事前評価の内容		
			有効性	効率性	公益性
2	みんなの里山整備活動推進事業	伊賀市	**B (3.4)**	B (3.2)	B (3.0)

2） 評価委員の事前評価と意見

有効性

評価	評価委員のコメント
4	・市民参加。 ・多くの団体と協力しながら推進しているところが評価できる。 ・市内の自治体からの申請による地域の里山の整備。
3	・地域住民の主体的参加によって取組が展開されている。 ・地域活動への支援の手法を評価する。
2	
1	

効率性

評価	評価委員のコメント
4	・上限金額が定められ多くの団体かこの制度を利用し整備が行われている点は評価できる。
3	
2	
1	

公益性（波及度）

評価	評価委員のコメント
4	
3	・何を購入し補助したのかを明確にすること。
2	
1	

第6号様式（その3）

平成　30　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市

番号	区分	事業名
2	基本	みんなの里山整備活動推進事業
事業費	4,932,962 円(うち交付金　4,932,962 円 うち基金活用　0 円)	

1. 事業の目的

地域住民の主体的な参加のもと、自治会等が行う地域や生活に密着した緑の環境づくりや里山・竹林の再生活動に対して支援する。

2. 事業実績概要

【事業内容】
緑の環境づくりや生活に密着した里山・竹林の再生のための自治会等の地域住民によるボランティア活動に対して補助金を交付する。

【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】
地域住民が組織する自治会等の団体

【補助率等】
対象活動の用具費等経費10/10以内(ただし、上限25万円/団体)

【箇所数】
22箇所

【事業量】
事業量:市内の自治会等　22団体で実施
事業費:4,425,000円(補助金額)

【事業実施期間】
平成30年4月2日から平成31年3月29日

【受益者、参加者、利用者数等】
延べ参加者数　1,023人　整備面積 約21ha

3. 有効性

【実施箇所の選定理由】
補助金交付申請による

【実施した効果】
既存の森林整備事業では整備が難しい、暮らしに身近な里山や竹林の整備ができた。

【実施箇所の今後の管理体制】
地域の里山として、実施主体の自治会等により適正に管理を行っていく。

【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】
参加者に森林整備の有用性についてのチラシやアンケートを配布し、森林整備に対する意識が高められた。

【実施内容に対する住民等の反応】
住民参加による森林整備の必要性に対する理解が深まり、継続的に取り組みたいとの声もあった。

平成　30　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市

番号	区分	事業名
2	基本	みんなの里山整備活動推進事業
事業費	4,932,962 円(うち交付金　4,932,962 円 うち基金活用　0 円)	

4. 効率性

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
自治会等から提出された補助金交付申請を審査し、交付要綱に適合している場合は、補助金を支出する。

【実施方法の選定理由】
里山や竹林を地域住民の手で再生していくため、補助金制度として運用している。

【契約方法と落札率または補助率等】
対象活動の用具費等経費10/10以内(ただし、上限25万円/団体)

【契約相手方の選定理由】
該当なし

【事業費の積算根拠】
対象活動の用具費等経費10/10以内(ただし、上限25万円/団体)

5. 公益性（波及度）

【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】
実績報告書により、参加者数を把握。

【管理責任者（森林所有者）への対応】
実施団体(自治会等)により、暮らしに身近な森林として継続的に管理。

【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】
地域共有の場としての里山を事業対象としているため、転用等は想定されない。

6. 周知実績と今後の周知

【実施前の実績】
事業募集時に、市のHPなどで「みえ森と緑の県民税市町交付金事業」であることの周知をした。「みえ森と緑の県民税」を財源とした事業の実施について、ケーブルテレビの行政放送にて放映した。

【実施中の実績】
みえ森と緑の県民税による整備活動を示すのぼりの掲示を依頼し、県民税事業の周知活動の推進を行った。

【実施後の実績】
参加者にチラシやアンケートを配布し、「みえ森と緑の県民税市町交付金事業」であることを周知した。

【今後の見込】
各自治会等への事業目的の理解促進や周知徹底を図ることにより、事業効果の向上を目指す。
実施結果などについて、市のHPなどで周知を行う。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

平成28年度実施:25団体　参加者数1,112人　整備面積 約26ha
平成29年度実施:23団体　参加者数1,289人　整備面積 約28ha

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	伊賀市

事業名	みんなの里山整備活動推進事業

7. 写真

写真１

里山整備のようす

写真2

通行支障木伐採のようす

写真3

里山整備のようす

写真4

里山整備伐採活動のようす

写真5

里山における伐採活動のようす

写真6

里山における支障木伐採後の搬出作業のようす

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市

事業名	みんなの里山整備活動推進事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
補助金交付				4,425,000	22団体
みえ森と緑の県民税事業による整備活動PR木板				84,240	
みえ森と緑の県民税事業による整備場所看板	枚	35.00	432	15,120	
研修用資材(安全講習用防具等)				408,602	林業用資材
事業費				4,932,962	

作業内容	名称	活動人数	整備面積	活動日	金額	備考
里山公園整備	法花区	100	0.40	6/17,7/7,9/24,12/8	250,000	
公園周辺里山整備 竹林整備	中矢区	93	1.50	6/30.7/21.9/8.11/17.12/8	250,000	
里山整備	音羽区	25	0.10	10/21,10/28	250,000	
里山整備	丸柱区	35	0.10	9/23,9/30	250,000	
竹林整備	西山自治会	75	1.30	12/8.9	250,000	
地域の森林整備	坂下区	78	0.60	7/15~11/24	216,000	
荒廃林の整備	諸木区	19	0.50	10/21,11/17	142,000	
雑木雑草除去	勝地区	80	2.00	7/14～11/11	248,000	
雑木雑草除去	妙楽地区	80	2.00	7/8～12/15	248,000	
危険木伐採、倒木除去	大内区	28	0.20	11/9、11/10	230,000	
危険木伐採	伊勢路区	15	0.50	8/26,10/14	219,000	
草刈、枯れ木伐採	霧生区	69	0.80	9/2,9/9,9/22,11/11,11/18	250,000	
危険木伐採	下阿波区	20	0.10	10/21.11/18	250,000	
危険木伐採、竹林整備	田中区	40	0.15	12/4.6.10.12	104,000	
里山沿道整備	中友田区	14	3.00	12/22.12/23	233,000	
竹枝伐採	小杉区	100	0.80	10/13.12/2	121,000	
山道の枝おとし	猪田大東区自治会	45	0.50	11/23.1/27	42,000	
危険木伐採	下川原区	23	0.76	12/16.17 1/12	119,000	
危険木伐採	青山羽根区	29	0.04	12/12.17.22	220,000	
危険樹木の伐採	東高倉区	31	5.00	1/20、1/26	245,000	
桜の剪定	佐那具町自治会	14	0.10	2/2.9	56,000	
危険樹の撤去	四十九町自治会	10	0.10	2/26.27	232,000	
	計	1,023	21		4,425,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

平成30年度みえ森と緑の県民税市町交付金事業

3．事前評価がA・B評価の境の事業

⑤集落周辺森林（里山）整備事業
（紀北町）

議論する事業 ⑤

1） 評価委員の事前評価 （資料2-2 P8-30）

対策区分	事業名	市町名	事前評価の内容		
			有効性	効率性	公益性
2	集落周辺森林（里山）整備事業	紀北町	**B (3.4)**	B (3.1)	B (3.2)

2） 評価委員の事前評価と意見

有効性

評価	評価委員のコメント
4	・登山道の整備活動に支援する取り組みは評価できる。 ・地域住民組織が主体となる取組で良い。
3	
2	
1	

効率性

評価	評価委員のコメント
4	
3	・少ない金額で大きな成果をあげている。
2	
1	

公益性（波及度）

評価	評価委員のコメント
4	・このグループが整備したルートは評判が良い。
3	
2	
1	

第6号様式（その3）

平成　30　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀北町

番号	区分	事業名
3	基本	集落周辺森林(里山)整備事業
事業費	228,454 円(うち交付金	226,100 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的

当地域は、沿岸部に人家が密集し、背後に急傾斜地を有する人家が多く、近い将来想定される東南海地震による津波の襲来が心配される。また、近年人家周辺山林に人が入ることが少なくなり、野生動物の隠れ場になっているケースも多い。

このような集落周辺等の荒廃が進む森林を住民自らが整備し、森林の持つ多面的な機能を活用し、安全安心・快適な生活環境を創出していく。

2. 事業実績概要

【事業内容】

集落周辺等の登山道において、風倒木・古損木の伐採、不要萌芽の除去、雑草木の刈払い、歩道の作設などの森林整備活動費を実施した地域住民で組織する団体(ボランティア組織)に補助する。

【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】

地域住民で組織する1団体(ボランティア組織)：NTRC

【補助率等】

3名以上で組織する団体が自主的に取り組む、集落周辺の森林整備等に関する保全活動及び森林環境整備活動に直接必要と認められる経費(人件費、食糧費等は除く。)で、1ヘクタール当たり16万円を上限とする。

補助金の額は1団体、年度当たり20万円を上限とする。

集落から概ね1km圏内の森林であること。

森林整備の場合は、森林所有者と『森林に関する協定』を締結している森林で事業を実施すること。

【箇所数】

整備した登山道は2ルート

【事業量】

2つの登山道で、風倒木・枯損木の伐採、不要萌芽の除去、雑草木の刈払い、歩道の作設・改修、土留めを合計2.49haの整備を実施。

【事業実施期間】

平成30年5月10日～平成31年3月28日

【受益者、参加者、利用者数等】

整備は2つの登山道で実施されており、受益人数の把握は困難だが、多くの登山者への波及効果が期待できる。

3. 有効性

【実施箇所の選定理由】

団体からの補助申請箇所について、職員が写真及び現地調査により現状を確認し、実施の必要性を検討して交付を決定している。

【実施した効果】

登山道が整備され、登山者の安全、安心が図られた。

【実施箇所の今後の管理体制】

整備箇所については、NTRCをはじめとする登山グループなどが自主的に整備する。

【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】

整備箇所は登山道として今後も活用できる。

【実施内容に対する住民等の反応】

登山者からは、登山道の環境が整備され、安全性が増したという意見をいただいている。

平成　30　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀北町

番号	区分	事業名
3	基本	集落周辺森林(里山)整備事業
事業費	228,454 円(うち交付金　226,100 円 うち基金活用　0 円)	

4. 効率性

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
補助事業

【実施方法の選定理由】
荒廃した里山等の再生並びに集落周辺の森林整備など、暮らしに関わりの深い森林づくりが地域住民の自主的な取り組みにより継続的に実施されることを期待するとともに、最小限の費用で整備することが可能であることから団体への補助事業としている。

【契約方法と落札率または補助率等】
森林整備活動に直接必要と認められる経費（人件費、食糧費は除く。）で、1ヘクタール当たり単価は、新規箇所では16万円、継続箇所は8万円とし、1団体、年度当たり20万円を上限とする。

【契約相手方の選定理由】
補助事業であるため、該当しない。

【事業費の積算根拠】
集落周辺森林(里山)の整備に必要な活動経費（人件費、食糧費は除く。）を補助対象としており、実績報告により提出された請求書や領収書により、町職員が支出内容を確認している。

5. 公益性（波及度）

【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】
整備は2つの登山道で実施されており、受益人数の把握は困難だが、多くの登山者への波及効果が期待できる。

【管理責任者（森林所有者）への対応】
森林所有者との調整は団体が行っており、本事業により事業実施主体(団体)が適切な森林整備を実施し、事業実施後は森林所有者ともに適切に維持管理することとしている。

【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】
登山道については以前から登山者や森林所有者が利用しており、今後も同様の活用となると考えられる。

6. 周知実績と今後の周知

【実施前の実績】
町においては、行政報告会で税を活用した事業の実施を周知しました。また、『NTRC』は前年度に取り組んでいるため、事業継続を確認した。

【実施中の実績】
実施団体から森林所有者に対して、税を活用して取り組む事業であることを周知している。また、団体の代表から会員に事業内容を認識させている。

【実施後の実績】
森林所有者の同意を得たうえで実施箇所に税をPRする標柱を設置する。

【今後の見込】
森林所有者の同意を得たうえで実施箇所に標柱を設置したり、町HPや広報誌への記事掲載を検討している。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

『NTRC』に対し、本事業の取り組みを継続的に実施するよう求めた。

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀北町
事業名	集落周辺森林（里山）整備事業		

7. 写真

ルート①　大台ケ原尾鷲道（便ノ山～堂倉谷～尾鷲辻）

写真1 【実施中】標識設置

写真2 【実施中】風倒木伐採

写真3 【実施中】標識設置

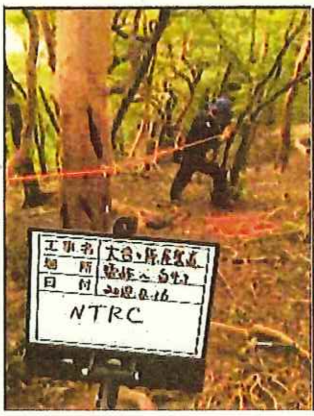


写真4 【実施中】
ガイドロープ設置

写真5 【実施中】
架橋設置

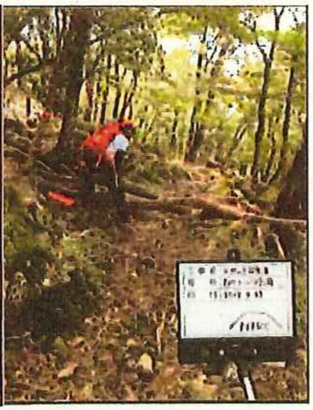


写真6 【実施中】
風倒木伐採

ルート②　木津道

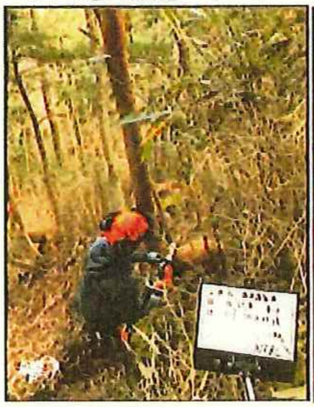
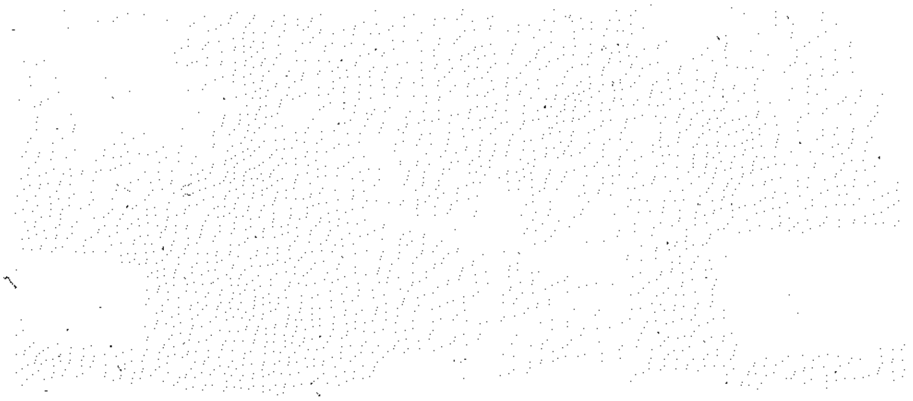
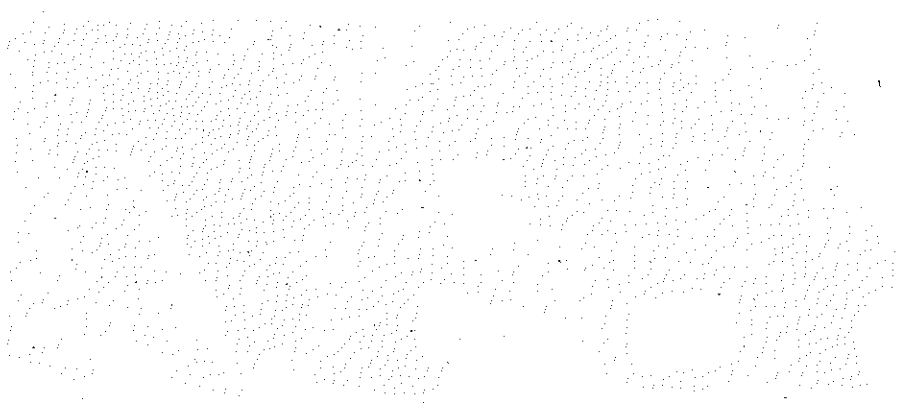


写真7 【実施中】
雑木の除去

写真8 【実施中】
標識設置

写真9 【実施中】
架橋設置





平成30年度みえ森と緑の県民税市町交付金事業

3．事前評価がA・B評価の境の事業

⑥森と緑の生涯学習講座
（鈴鹿市）

議論する事業 ⑥

1） 評価委員の事前評価 （資料2-2 P3-51）

対策区分	事業名	市町名	事前評価の内容		
			有効性	効率性	公益性
3	森と緑の生涯学習講座	鈴鹿市	**B (3.4)**	B (3.0)	B (3.1)

2） 評価委員の事前評価と意見

有効性

評価	評価委員のコメント
4	・森とみどりの生涯学習講座の委託事業で、各公民館が工夫して、それぞれが独自に内容を検討していることが評価できる。 ・生涯学習という位置づけにして，多世代で学べる講座としたのはとても良いと思う。（アンケート調査で，鼓ヶ浦だけ少々ネガティブ回答が多いのが気になる） ・保育室が木育、森林教育の場になっていることがよい。
3	・５９の学習講座の設置。
2	・様々な森林環境教育を実施している点は評価できる。
1	

効率性

評価	評価委員のコメント
4	
3	・夏休みなどを利用し多くの参加者を集めている。
2	・一者の随意契約。
1	

公益性（波及度）

評価	評価委員のコメント
4	
3	・多くの子どもたちが森林に関心をもつきっかけになりうる。
2	
1	

第6号様式（その3）

平成　30　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書　別紙２

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市

番号	区分	事業名
8	基本	森と緑の生涯学習事業
事業費	890,662 円(うち交付金	890,662 円 うち基金活用　0 円)

1. 事業の目的

小学生を中心とした子どもと保護者が，森や緑の大切さについて学び，ふれあうことにより，多くのあらゆる世代の市民が，森林保全や持続可能な自然環境などの理解を深めることを目的とする。

2. 事業実績概要

【事業内容】
各公民館運営委員会に「森と緑の生涯学習講座」として委託し，公民館及びその周辺において，小学生を中心とした子どもと保護者，或いは高齢者と子どもたちが，夏休みなど長期休暇を利用しながら，年3回程度，間伐材を使用した木工教室，フィールドワークなどの森林環境学習を実施した。

【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】
鈴鹿市

【補助率等】
100%

【箇所数】
13公民館(庄内，石薬師，庄野，清和，加佐登，箕田，神戸，飯野，長太，栄，合川，鼓ヶ浦，郡山)

【事業量】
講座実施回数　10館×3回，3館×4回　合計59講座

【事業実施期間】
平成30年4月～平成31年3月

【受益者、参加者、利用者数等】　☆評価の分類「多様性、発展性」「森林を支える社会づくりへの貢献度」
小学生を中心とした子どもと保護者，大人，子どもと高齢者など延べ参加者数　1,262名

3. 有効性

【実施箇所の選定理由】　☆評価の分類「事業計画」
森林学習について意欲的に取り組み，工夫された企画を実施することにより，森林への理解が深まることが期待される公民館を選定。

【実施した効果】　☆評価の分類「事業効果」
各館において，専門家の森の実情，環境，また，県産材の利活用などの講義で基本を学び，木工教室やフィールドワークなどの実技を取り入れた森林学習を通じて，学習参加者が森や緑の大切さを学ぶことができた。

【実施箇所の今後の管理体制】　☆評価の分類「実施後の管理体制」
施設等整備ではなく，該当しない

【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】　☆評価の分類「事業効果」「森林を支える…貢献度」
平成30年度も引き続き，各館において創意工夫を凝らした「森と緑の生涯学習講座」を検討し，子どもを中心とした市民に対して，理解周知に努める。

【実施内容に対する住民等の反応】　☆評価の分類「住民の反応」
別添アンケート結果のとおり

平成　30　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書　別紙2

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市

番号	区分	事業名
8	基本	森と緑の生涯学習事業
事業費	890,662 円(うち交付金　890,662 円 うち基金活用　0 円)	

4. 効率性

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
委託

【実施方法の選定理由】　☆評価の分類「実施方法」
生涯学習，地域の交流拠点として地域にある公民館は事業実施に最適な場所であり，「森と緑の生涯学習講座」については，他の公民館事業と同様，地域住民で構成された公民館運営委員会に委託することが必要と考える。

【契約方法と落札率または補助率等】　☆評価の分類「公平性」
随意契約（地方自治法施行令第167条の2第1項第2号），補助率100％

【契約相手方の選定理由】
公民館運営委員会が，地域の生涯学習の場，地域の方の交流の拠点でもある公民館の事業運営を行っているため。

【事業費の積算根拠】　☆評価の分類「透明性」
1館あたり70千円。講師料30千円，材料費等35千円，施設や道具の使用料5千円

5. 公益性（波及度）

【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】　☆評価の分類「受益対象」
「森と緑の生涯学習講座」については，1,262名の参加。事前申込み制とし，当日の参加者数を把握。

【管理責任者（森林所有者）への対応】　☆評価の分類「支援の必要性」
個人が所有する森林等の整備ではなく，該当しない

【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】　☆評価の分類「整備箇所の転用や目的外使用の規制」
公民館事業であるため，転用等が想定されず，該当しない

6. 周知実績と今後の周知　☆評価の分類「事業内容」「多様性、発展性」「森林を支える…貢献度」

【実施前の実績】
公民館の講座チラシや毎月発行する公民館だよりにおいて，交付金事業である旨を記載し，地域の回覧板や市ホームページや各小学校で講座の案内と募集を行った。

【実施中の実績】
講座の冒頭などに，講師から説明を行うとともに，資料などに交付金事業の掲載を行った。また，ノベルティ(クリアファイル,しおり,焼印)などで公民館利用者にも周知を行った。

【実施後の実績】
講座終了後，公民館だよりなどで，内容の周知を行った。

【今後の見込】
実施前，実施中，実施後の周知を各公民館の講座チラシ，ポスター，公民館だよりなどで行う。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分	3. 森を育む人づくり

市町名	鈴鹿市

事業名	森と緑の生涯学習講座

7. 写真

写真1

箕田公民館:ゴム鉄砲作り

写真2

鼓ヶ浦公民館:木工工作(夏)

写真3

加佐登公民館:ネイチャーゲーム

写真4

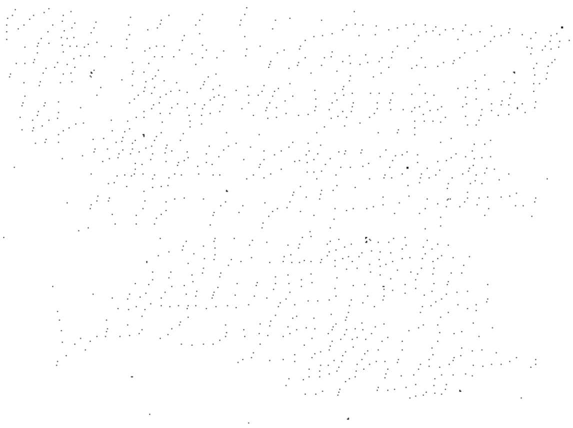
鼓ヶ浦公民館:丸太ぎり

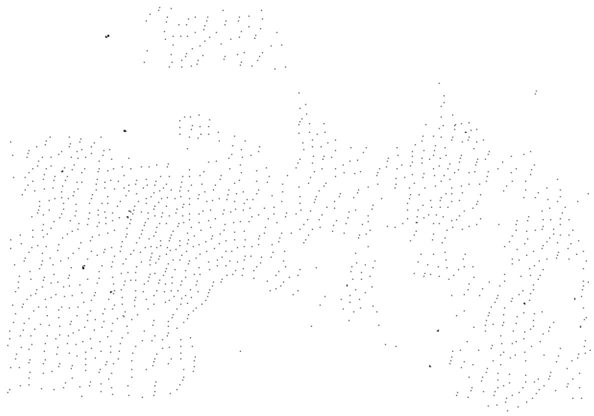
写真5

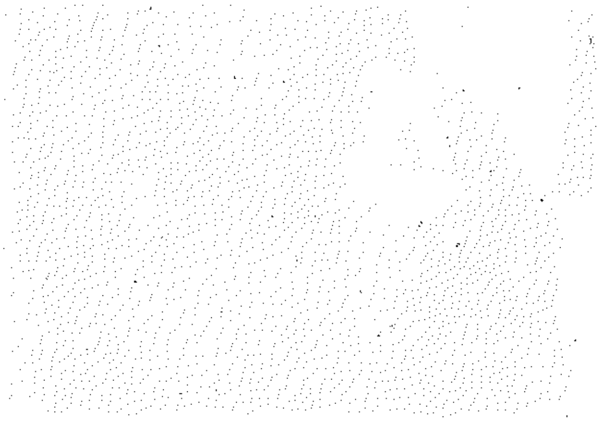
神戸公民館:ジャングルジムを組み立てて遊ぶ

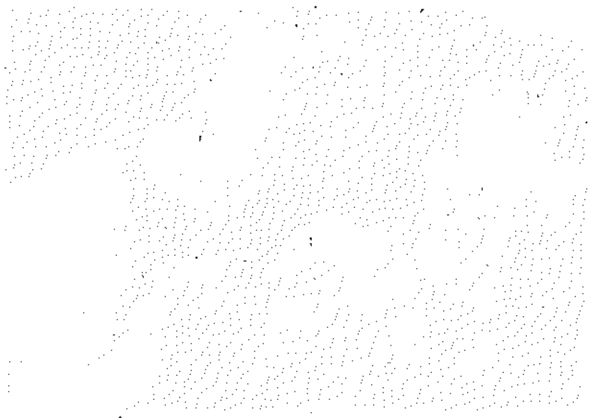
写真6

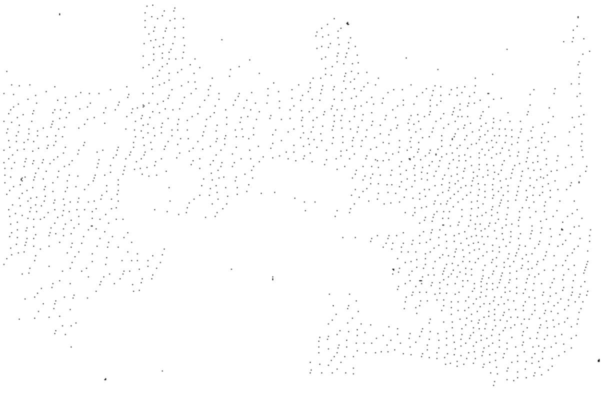
栄公民館:ヒノキのシートでうちわ作り

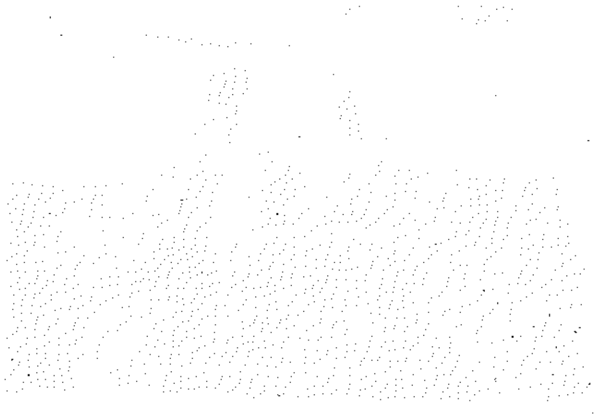












平成30年度みえ森と緑の県民税市町交付金事業

3．事前評価がA・B評価の境の事業

⑦ 津市森林環境教育事業

（津市）

議論する事業 ⑦

1） 評価委員の事前評価 （資料2-2 P4-7）

対策区分	事業名	市町名	事前評価の内容		
			有効性	効率性	公益性
3	津市森林環境教育事業	津市	**B (3.4)**	B (3.0)	B (3.1)

2） 評価委員の事前評価と意見

有効性

評価	評価委員のコメント
4	・子どもたちに森林について学びを深めてもらえる事業なので、継続してほしい。 ・親子を対象とした塾の開催。 ・木工と森林・林業の学習を組み合わせており、多くの子どもたちにメッセージを伝えていると思われる。
3	
2	
1	

効率性

評価	評価委員のコメント
4	・選定理由が明確。
3	・体験から現場の見学パネル展示など工夫され分かりやすい内容になっていると評価できる。
2	・一者の随意契約？ ・費用の内訳がわかりにくい。
1	

公益性（波及度）

評価	評価委員のコメント
4	・広く周知がなされている。
3	・参加者も適度な人数である。
2	
1	

第6号様式（その3）

平成　30　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	津市

番号	区分	事業名
2	基本	津市森林環境教育事業
事業費	488,160 円(うち交付金　488,160 円 うち基金活用　円)	

1. 事業の目的

夏休み森と緑の親子塾　(美杉町上多気　木材加工処理施設)
木のぬくもりや、木の良さを知ってもらうため、市内在住・在学の小学生と保護者を対象に「夏休み森と緑の親子塾」を開催し、森林や木材について学び、ふれあう場を提供する。
まるごと林業体験　(美杉町石名原ほか)
津市に在住・在勤・在学の18歳以上方を対象に、普段なかなか身近に感じることのできない森林のはたらきや林業という仕事を、現場での体験を通して正しく理解してもらい、自らが進んで森林環境教育に取り組める人材を育てていくことを目的に開催します。

2. 事業実績概要

【事業内容】
夏休み森と緑の親子塾
木工体験(プランター・本立て等)、林業体験(丸太の鋸切・丸太皮むきなど)
まるごと林業体験
間伐現場見学(高性能林業機械見学)・林業施設見学(製材工場や原木市場など見学)

【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】
津市

【補助率等】
補助事業ではないので該当しない。

【箇所数】
夏休み森と緑の親子塾:1箇所
まるごと林業体験:1箇所

【事業量】
夏休み森と緑の親子塾:1回
まるごと林業体験:1回

【事業実施期間】
夏休み森と緑の親子塾:平成30年6月25日～平成30年8月5日(募集期間含む)
まるごと林業体験:平成30年9月14日～平成30年11月17日(募集期間含む)

【受益者、参加者、利用者数等】
夏休み森と緑の親子塾:親子18組54名
まるごと林業体験:15名

3. 有効性

【実施箇所の選定理由】
夏休み森と緑の親子塾:森林や林業をより身近に感じてもらいながら、森林環境教育を促進させる体験活動型のイベントの開催場所としては、林業が盛んな美杉地域が適切な場所であり、中でも道の駅周辺は利便性に優れている。
まるごと林業体験:実際に林業の作業が行われている地域の中で、今回の事業内容を考慮し、集合場所や施設見学が可能な施設や林業現場までの移動時間等を勘案し選定。

【実施した効果】
夏休み森と緑の親子塾:木工細工等により、直接木に触れることで、木のぬくもりと物を作ることの楽しさを認識していただき、森林のはたらきについて学ぶことで親子で森林に対する理解を深めることができた。森林環境教育として、森を育む人としてのきっかけづくりの場を提供することができた。
まるごと林業体験:実際の作業現場や施設を見学することで参加者が林業に対する理解を深め、循環可能な資源である木材を利用する意義を知るとともに、森林の持つ公益的機能の理解が深り森を育む人づくりに寄与することができた。

【実施箇所の今後の管理体制】
体験学習の開催であり、該当しない。

【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】
体験学習の開催であり該当しない。※平成26年度から毎年実施しており、今後も継続して開催したい。

【実施内容に対する住民等の反応】
夏休み森と緑の親子塾:木工細工では物を作る楽しさと木への関心を高めることができた。丸太切りや木の皮むき体験では生の木に触れ、作業の大変さやうまくできたときの面白さを驚きや興味を持って体験してもらうことができた。また【森林のはたらき】についてのパネル展示や講習で森林多面的機能について関心を持っていただくことができた。
まるごと林業体験:機械化された現代林業の作業の様子や目前での伐採作業に大いに興味を持ってもらうことができた。製材工場の見学では原木丸太の皮むきや製材の作業工程を見学し、原木市場では広大な土場に並んだA材B材を見ることで、森林の循環に関する理解と関心を持っていただくことができた。

平成　30　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	津市

番号	区分	事業名
2	基本	津市森林環境教育事業
事業費	488,160 円(うち交付金 488,160 円 うち基金活用 円)	

4. 効率性

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
市広報や市ホームページ上で、参加者を募集。
事業は委託により実施。

【実施方法の選定理由】
森林や林業をより身近に感じてもらいながら、森林環境教育を促進させるには、木工細工や林業体験などの体験活動型のイベントをすることが効果的なため。

【契約方法と落札率または補助率等】
夏休み森と緑の親子塾：地方自治法施行令第167条の2第1項第2号の規定に基づく随意契約　落札率 97.20%
まるごと林業体験：地方自治法施行令第167条の2第1項第2号の規定に基づく随意契約　落札率 97.92%

【契約相手方の選定理由】
夏休み森と緑の親子塾：地域の実情に精通しており、森林・林業に関する経験や知識が豊富で、木材加工にも技術的な指導などにも優れている会員が多く所属する団体であるため。
まるごと林業体験：津市競争入札参加資格者名簿において森林に関する希望を出している者のうち、認定林業事業体である2者

【事業費の積算根拠】
夏休み森と緑の親子塾：木工細工及び森林教室に関する労務費を委託業務として市の積算システムにより積算。
まるごと林業体験：林業機械操作及び木工細工に関する労務費を委託業務として市の積算システムにより積算。

5. 公益性（波及度）

【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】
夏休み森と緑の親子塾：親子18組54名、まるごと林業体験：15名
参加申し込みが必要なイベントであり参加者の把握が可能である。

【管理責任者（森林所有者）への対応】
体験学習の開催であり、該当しない。

【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】
体験学習の開催であり、該当しない。

6. 周知実績と今後の周知

【実施前の実績】
市広報や市ホームページ上で、参加者を募集。

津市ＨＰアドレス：　http://www.info.city.tsu.mie.jp/www/index.html

【実施中の実績】
開催中は会場の壁面に横断幕を掲げるとともに幟等を設置し、県民税の事業として開催されていることを周知。

【実施後の実績】
当日の開催状況をホームページに掲載している。

【今後の見込】
今後に関しても継続的に森林教室を継続して開催することで、毎年のイベントとして市民の方々への定着を図るとともに、いろいろな林業に関する体験ができるよう事業内容を考案し実施したい。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	津市
事業名	津市森林環境教育事業		

7. 写真

写真1
H30.8.5 「夏休み森と緑の親子塾」
（木材加工施設　集合写真）

写真2
H30.8.5 「夏休み森と緑の親子塾」
（パネル展示、説明）

写真3
H30.8.5 「夏休み森と緑の親子塾」
（丸太切り体験）

写真4
H30.11.17 「まるごと林業体験」
（白山庁舎　集合写真）

写真5
H30.11.17 「まるごと林業体験」
（伐採搬出現場見学　美杉町石名原）

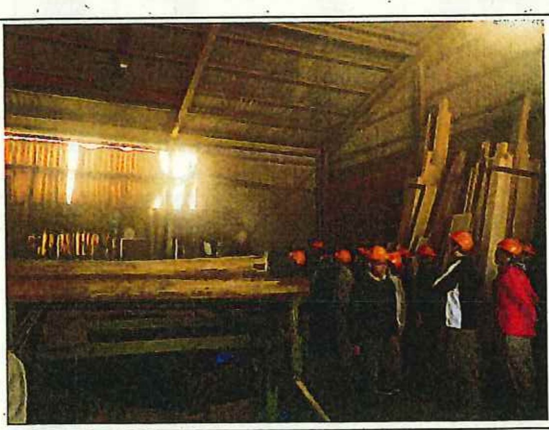


写真6
H30.11.17 「まるごと林業体験」
（製材工場見学　美杉町丹生俣）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	津市

事業名	津市森林環境教育事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
夏休み森と緑の親子塾	式	1.00	194,400	194,400	
まるごと林業体験	式	1.00	293,760	293,760	
事業費				488,160	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
夏休み森と緑の親子塾（開催業務委託）	木工品キット	セット	20.00	1,300	26,000	プランター等
	木工教室指導者	人	2.00	18,400	36,800	
	林業体験指導者	人	3.00	18,400	55,200	
	木材加工処理施設使用料	日	1.00	4,000	4,000	
	諸経費	%	57.2	122,000	69,000	調整額あり
	消費税	%	8.00	191,000	15,280	
	計（設計額）	式	1.00	206,280	206,280	
	計（契約額）	式	1.00	194,400	194,400	落札率97.20%

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
まるごと林業体験（開催業務委託）	林業体験指導者	人	2.00	18,400	36,800	
	林業施設案内	人	6.00	18,400	110,400	
	木工品キット	セット	40.00	720	28,800	木箸
	傷害保険	式	1.00	1,000	1,000	
	諸経費	%	57.2	177,000	101,000	調整額あり
	消費税	%	8.00	278,000	22,240	
	計（設計額）	式	1.00	300,240	300,240	
	計（契約額）	式	1.00	293,760	293,760	落札率97.92%

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

平成30年度みえ森と緑の県民税市町交付金事業

3、事前評価がA・B評価の境の事業

⑧クップ普及推進事業
(尾鷲市)

議論する事業 ⑧

1） 評価委員の事前評価 （資料2-2 P8-7）

対策区分	事業名	市町名	事前評価の内容		
			有効性	効率性	公益性
3	クップ普及推進事業	尾鷲市	**B (3.4)**	B (3.1)	B (3.2)

2） 評価委員の事前評価と意見

有効性

評価	評価委員のコメント
4	・地元材を使いながら、森林に関心を持ってもらえる取り組みで評価できる。 ・尾鷲市で実施されるみえ国体デモンストレーション競技。
3	・今後の活用に期待します。
2	
1	

効率性

評価	評価委員のコメント
4	
3	
2	
1	

公益性（波及度）

評価	評価委員のコメント
4	・今後、「市のスポーツ」として定着し、それが発信されることで、効果が持続・拡大していくよう期待している。
3	
2	
1	

第6号様式（その3）

平成　30　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	尾鷲市

番号	区分	事業名
2	基本	クップ普及推進事業
事業費	2,805,300 円(うち交付金　2,805,300 円 うち基金活用　0 円)	

1. 事業の目的

2021年の三重国体において、本市で行うデモンストレーション競技「クップ」の開催に向け、競技の普及に合わせて、木とふれあう木育事業を推進するための尾鷲ヒノキ製の競技道具を整備する。

2. 事業実績概要

【事業内容】
尾鷲ヒノキ製の競技道具を利用し、「クップ」の競技普及をすることで、木育事業推進する。

【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】
尾鷲市

【補助率等】
補助事業ではなく、該当しない。

【箇所数】
19か所(市内小中学校、市内ｺﾐｭﾆﾃｨｰｾﾝﾀｰ、尾鷲市体育文化会館)

【事業量】
「クップ」の競技道具セットの制作(90セット)、普及物品(のぼり旗、クリアファイル)

【事業実施期間】
平成30年6月1日～平成31年3月31日

【受益者、参加者、利用者数等】
市内小中学生　生徒1,110人、地区会、老人会等地域ｺﾐｭﾆﾃｨ関係　1,000人

3. 有効性

【実施箇所の選定理由】
「クップ」という木材を利用した競技を普及させ、スポーツ振興と森林教育を行っていき、地元の尾鷲ヒノキを身近に感じ、触れることで木育推進を行なっていく。

【実施した効果】
地元産材である尾鷲ヒノキで「クップ」を製作したことで、森林を身近に感じ、触れていただき、学校児童生徒や、その他大人等の利用者に対し、森林の重要性や必要性についての認識を深め、県民税に対する理解を得られた。

【実施箇所の今後の管理体制】
配置施設は、公共の施設であるので、各施設にて責任をもって管理していただく。

【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】
「クップ」の競技道具として地元産材を使用したことで、木育と併せた活動を行い、木に親しみを持っていただいた。また、利用者に対して、県民税の活用や森林の重要性、必要性を説明し、森林づくりの意識醸成を図っていく。

【実施内容に対する住民等の反応】
地元産材である「尾鷲ヒノキ」に触れながら、外でできるスポーツであることから、子どもから大人まで大変好評である。

平成 30 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	尾鷲市

番号	区分	事業名
2	基本	クップ普及推進事業
事業費	2,805,300 円(うち交付金 2,805,300 円 うち基金活用 0 円)	

4. 効率性

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
市による物品一括購入

【実施方法の選定理由】
普及を図るため市による一括購入した。

【契約方法と落札率または補助率等】
・一般競争入札(クップセット) 落札率92.3%
・随意契約(普及物品)

【契約相手方の選定理由】
・一般競争入札による
・市の規定(地方自治法施行令第167条の2第1項第1号に定める50万円以下の契約)による随意契約

【事業費の積算根拠】
参考見積書により積算

5. 公益性（波及度）

【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】
市内小中学生 生徒1,110人、地区会、老人会等地域コミュニティ関係 1,000人

【管理責任者（森林所有者）への対応】
森林整備等ではなく、該当しない。

【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】
公共の施設への配置であるので、転用等が想定されず該当しない。

6. 周知実績と今後の周知

【実施前の実績】
市においては、市広報及び市ホームページにて県民税の事業計画を周知した。また、参加募集の際にみえ森と緑の県民税を活用することを周知した。

【実施中の実績】
クップ体験実施時にのぼり旗を掲揚するなどクップのPRと県民税の周知を行なった。

【実施後の実績】
市においては、市広報及び市ホームページにて県民税の事業実績を周知していく。クップセットを活用したイベントを開催した際には、参加者に県民税の周知を行ない、取材に来たマスコミを通じても周知した。また、パネル展示を行ない、多くの方に森林整備の重要性や県民税の活用方法などの周知も行なった。

【今後の見込】
引き続きイベントやパネル展示などにより、多くの方に本事業について周知していく。また、普及をする際には、指導と併せて森林教育や県民税の周知を図っていく。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	尾鷲市
事業名	クップ普及推進事業		

7. 写真

写真1

クップ（90セット）

写真2

クップ普及用品（のぼり旗小）

写真3

クップ普及用品（のぼり旗大）

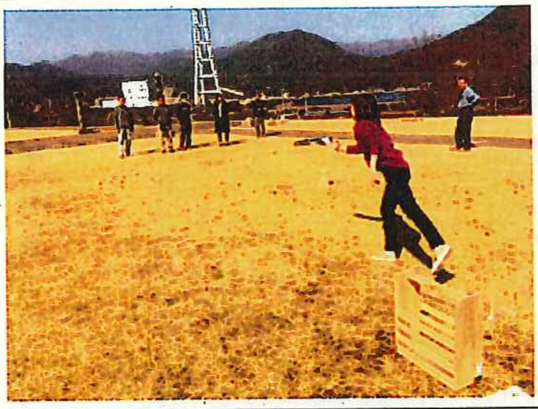


写真4

クップ体験

写真5

クップ体験

写真6

クップ体験

クップセット一式配置予定

1　必要セット数　…　90 セット

2　必要セット数内訳

(1) 学校施設

学校名	学級数	児童数	必要数
尾鷲小学校	18	491	18
宮之上小学校	6	110	6
矢浜小学校	6	62	3
向井小学校	5	21	2
三木小学校	3	18	2
三木里小学校	3	13	2
賀田小学校	4	25	2
尾鷲中学校	12	349	12
輪内中学校	3	21	3
※H29.5.1現在		合計	50

(2) ｺﾐｭﾆﾃｨｰｾﾝﾀｰ

名称	必要数
須賀利ｺﾐｭﾆﾃｨｰｾﾝﾀｰ	3
九鬼ｺﾐｭﾆﾃｨｰｾﾝﾀｰ	3
早田ｺﾐｭﾆﾃｨｰｾﾝﾀｰ	3
三木浦ｺﾐｭﾆﾃｨｰｾﾝﾀｰ	3
三木里ｺﾐｭﾆﾃｨｰｾﾝﾀｰ	3
古江ｺﾐｭﾆﾃｨｰｾﾝﾀｰ	3
賀田ｺﾐｭﾆﾃｨｰｾﾝﾀｰ	3
曽根ｺﾐｭﾆﾃｨｰｾﾝﾀｰ	3
梶賀ｺﾐｭﾆﾃｨｰｾﾝﾀｰ	3
合計	27

(3)体育館保管　…　13

利用・貸出用

平成30年度みえ森と緑の県民税市町交付金事業

3．事前評価がA・B評価の境の事業

⑨森と緑の環境教育事業
（紀宝町）

議論する事業 ⑨

1） 評価委員の事前評価

（資料2-2 P9-42）

対策区分	事業名	市町名	事前評価の内容		
			有効性	効率性	公益性
3	森と緑の環境教育事業	紀宝町	**A (3.5)**	B (3.2)	**B (3.4)**

2） 評価委員の事前評価と意見

有効性

評価	評価委員のコメント
4	・住民の反応もよく、より森林環境に関心を持ってもらえそうな事業なので、継続してほしい。 ・多岐にわたるテーマの取組が開催されており，様々な人が楽しみながら森林への理解を深めることができそうな事業になっている。 ・多様なプログラムを多様なゲストを迎えて実施している。 ・多くの参加者。
3	・暮らし森林（竹林）のかかわりについてワークショップと講演会を組み合わせ評価できる。
2	
1	

効率性

評価	評価委員のコメント
4	・プログラムの回数の割にコストが安い。 ・参加者数も多く、町民の関心が高い。
3	
2	・委託先の根拠が不明確。
1	

公益性（波及度）

評価	評価委員のコメント
4	・開催数・参加者も多く、波及性がある。 ・この方法がある程度マニュアル化されて、いろんな場所や地域で展開されるとよい。 ・図書館カウンター等でのパンフレットの配布。
3	・魅力的な講師を呼ぶことで、町外からも参加があり効果が波及しているのではないかと思われる。
2	
1	

第6号様式（その3）

平成　30　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	紀宝町

番号	区分	事業名
1	基本	森と緑の環境教育事業
事業費	1,700,000 円(うち交付金　1,700,000 円 うち基金活用　700,000 円)	

1. 事業の目的

子どもから大人まで多くの町民の方々に、森や緑について学び、ふれあう機会を提供することにより、身近にある紀宝町の自然の魅力を再発見し、森や緑を守り育てることの大切さを、より一層理解していただくことを目的とする。

2. 事業実績概要

【事業内容】
森や緑について学び、ふれあう機会を提供することにより、紀宝町の自然の魅力を再発見し、森や緑を守り育てることの大切さを、より一層理解していただくことができるよう、竹かご編み教室の講演会・ワークショップや、獣害に強い豊かな里山づくりの講演会・ワークショップ、森とみどりのおはなし会・ワークショップ、絵本原画展、ライブペインティング、講演会、世界各地に伝わる木の文化についての映画上映会と、江戸時代から伝わる日本人の自然観が学べる伝統の「もんきりあそび」のワークショップ等を開催した。

【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】
紀宝町教育委員会

【補助率等】
補助事業ではなく、該当しない。

【箇所数】
該当しない。

【事業量】
講演会8回、ワークショップ6回、展示会1回

【事業実施期間】
平成30年6月～平成31年3月

【受益者、参加者、利用者数等】
受益者：町民および参加者
参加者：延べ472名（内訳：9/8開催 竹かご編み教室　20名、10/6開催 竹かご編み教室　17名、1/10開催　獣害に強い豊かな里山づくり講座＆ワークショップ　21名、1/11　獣害に強い豊かな里山づくり講座＆ワークショップ　17名、3/2　ECフィルム上映会＆ワークショップ　30名、森とみどりのおはなし会＆ワークショップ　28名、3/9～3/17　絵本原画展　190名、3/16ライブペインティング　56名、3/17　田島征三氏＆アーサー・ビナード氏講演会　93名）

3. 有効性

【実施箇所の選定理由】
該当しない。

【実施した効果】
講演会等に参加された多くの町民の方々に、アンケートを行い、森や緑を守り育てることの大切さを理解できたとの回答が多かった。アンケートについても回収率がほぼ100%に近く、アンケート結果もおおむね好意的なものが多い。イベントによっては、定員を大きく上回る申込みがあり、参加者は皆、熱心に取り組んでいた。後日、多くの参加者から、大変良い取り組みだったとの感想が多数寄せられた。

【実施箇所の今後の管理体制】
該当しない。

【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】
各イベントを通じ、森や緑を守り育てることの大切さを伝えることができた。

【実施内容に対する住民等の反応】
それぞれの講演会・ワークショップが大好評であった。紀宝町の豊かな自然と森や緑の大切さについて、いろいろと詳しく教わることができたので、地域住民等による今後の更なる展開が期待できる。イベントの中には、定員をはるかに上回る参加希望者がおり、来年度以降も引き続き継続しての開催を求める強い要望があった。

平成　30　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	紀宝町

番号	区分	事業名
1	基本	森と緑の環境教育事業
事業費	1,700,000 円(うち交付金　1,700,000 円 うち基金活用　700,000 円)	

4. 効率性

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
委託

【実施方法の選定理由】
事業目的に最も適した講師を選定するために、様々なノウハウを持っていて先駆的に取り組んでいる事業者を活用する方が、事業実施に有益であるため。

【契約方法と落札率または補助率等】
委託

【契約相手方の選定理由】
事業目的に最も適した講師を選定するために、過去にも実績があるなど、様々なノウハウを持っている事業者を活用した。

【事業費の積算根拠】
別紙の通り。

5. 公益性（波及度）

【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】
受益者:町民および参加者
参加者:延べ472名(内訳:9/8開催 竹かご編み教室 20名、10/6開催 竹かご編み教室 17名、1/10開催 獣害に強い豊かな里山づくり講座&ワークショップ 21名、1/11 獣害に強い豊かな里山づくり講座&ワークショップ 17名、3/2 ECフィルム上映会&ワークショップ 30名、森とみどりのおはなし会&ワークショップ 28名、3/9～3/17 絵本原画展 190名、3/16ライブペインティング 56名、3/17 田島征三氏&アーサー・ビナード氏講演会 93名)※把握方法としては事前申込制によるものと当日受付。

【管理責任者（森林所有者）への対応】
該当しない。

【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】
該当しない。

6. 周知実績と今後の周知

【実施前の実績】
町広報誌と町内全戸配布によるチラシにおいて、「みえ森と緑の県民税」の概要と、この税を活用した事業である旨を周知した。
また、三重県下の全公共図書館・図書室等と和歌山県の近隣図書館・図書室等にもチラシを配布した。

【実施中の実績】
講演会やワークショップ会場にて、「みえ森と緑の県民税」の概要と、この税を活用した事業である旨を周知し、参加者全員に「みえ森と緑の県民税」の案内パンフレットを配布した。

【実施後の実績】
地方新聞に「みえ森と緑の県民税」を活用した事業を実施したという紹介記事を掲載した。

【今後の見込】
事業実施後も継続して、図書館カウンターにおいて、希望者に「みえ森と緑の県民税」の案内パンフレットを配布している。
町民ホールにて、「みえ森と緑の県民税」を活用した事業を実施したという紹介パネルを展示する(平成31年度)

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

その後、図書館で開催した様々な講演会の講師をはじめとし、県外からの参加者や図書館利用者にも、「みえ森と緑の県民税」を幅広く周知している。

対策区分	3. 森を育む人づくり

市町名	紀宝町

事業名	森と緑の環境教育事業

7. 写真

写真1

竹かご編み教室　中級編

写真2

竹かご編み教室　中級編

写真3

獣害に強い豊かな里山づくり講座＆ワークショップ

写真4

獣害に強い豊かな里山づくり講座＆ワークショップ

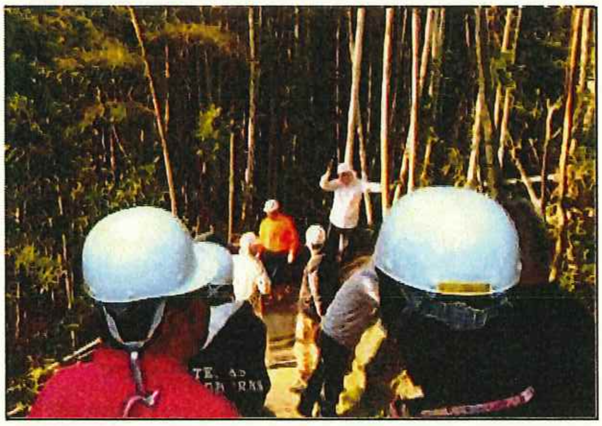
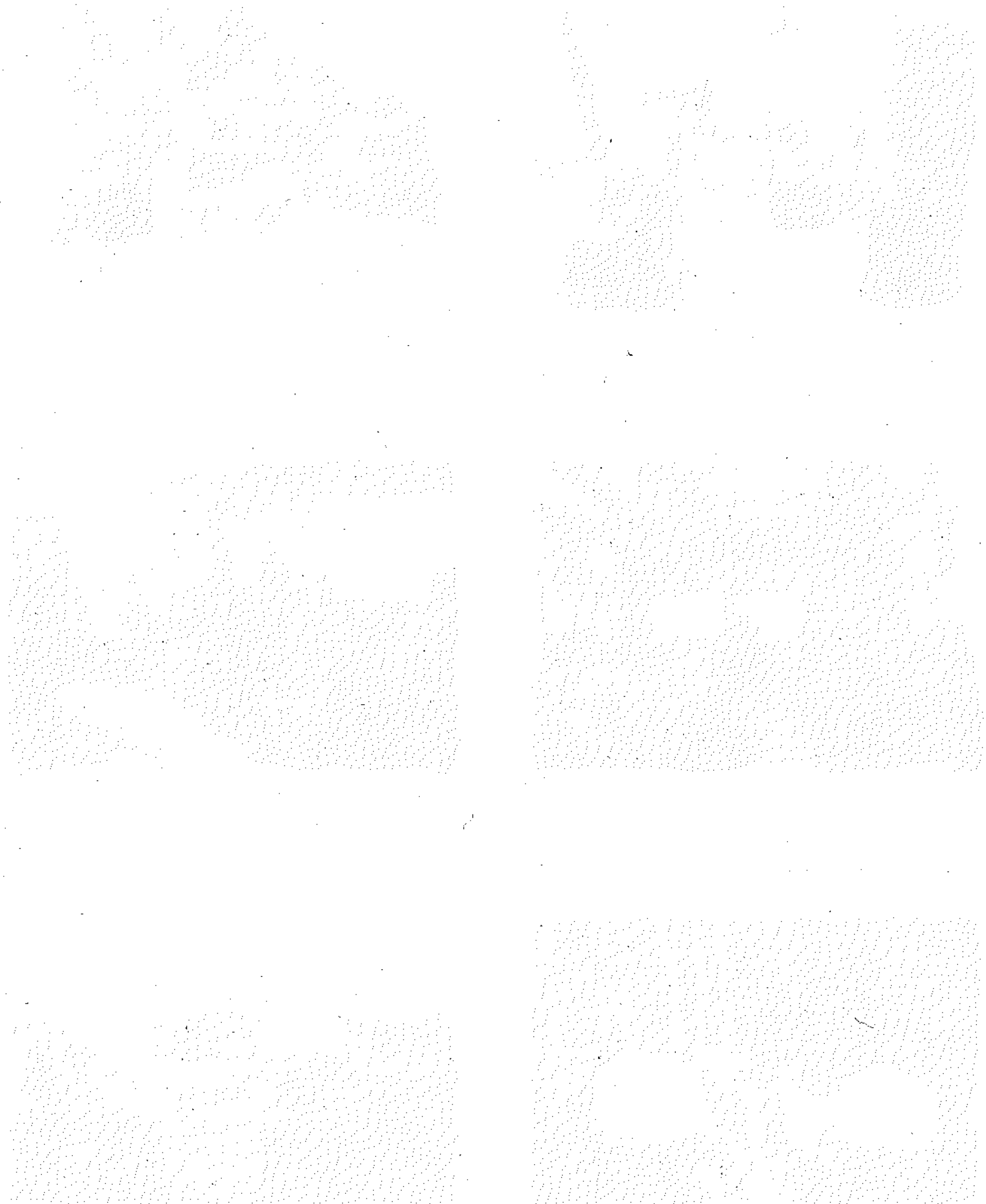


写真5

獣害に強い豊かな里山づくり講座＆ワークショップ

写真6

ECフィルム上映会＆ワークショップ



平成30年度みえ森と緑の県民税市町交付金事業

3．事前評価がA・B評価の境の事業

⑩ 病院備品等購入事業
（桑名市）

議論する事業 ⑩

1） 評価委員の事前評価 （資料2-2 P3-25）

対策区分	事業名	市町名	事前評価の内容		
			有効性	効率性	公益性
4	病院備品等購入事業	桑名市	**B (3.4)**	B (3.0)	B (3.3)

2） 評価委員の事前評価と意見

有効性

評価	評価委員のコメント
4	・多くの市民が利用する。 ・保育室が木育、森林教育の場になっていることがよい。
3	・公共施設における県産木材利用は評価できる。
2	
1	

効率性

評価	評価委員のコメント
4	
3	
2	・全体として相当大きな金額であり製品毎の価格が無いと適切な予算規模が評価し難い。
1	

公益性（波及度）

評価	評価委員のコメント
4	・「みえ森と緑の県民税交付金事業」のプレートを添付することにより使用者にＰＲを図った。 ・多くの方々が利用する施設でありキッズスペースでの活用も広がりを期待できる。
3	・市民に知られていない。
2	
1	

第6号様式（その3）

平成　30　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	桑名市

番号	区分	事業名
4	基本・特別	病院備品等購入事業
事業費	37,530,000 円(うち交付金	37,120,471 円 うち基金活用　　円)

1. 事業の目的

地域の中核病院としての役割を担う総合医療センター新病院に、木製(県産材)の椅子等の備品を導入することで、多数の住民が木と触れ合うことができると同時に、病院という場所を温かみの感じられる空間にする。

2. 事業計画概要

【事業内容】
平成30年開院の桑名市総合医療センター新病院に、県産材を使用した備品(椅子・ベンチ・机等)を整備する。

【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】
地方独立行政法人　桑名市総合医療センター

【補助率等】
補助事業でなく該当しない。

【箇所数】
3棟

【事業量】
椅子　205 脚
テーブル　97 台
キッズ椅子　42 脚
キッズテーブル　7 台
収納棚　18 台

【事業実施期間】
平成29年度～平成33年度(平成30年4月2日～平成31年3月29日)

【受益者、参加者、利用者数等】
桑名市総合医療センター来院者　約24万人

3. 有効性

【実施箇所の選定理由】
「桑名市総合医療センター」は老若男女問わず、多くの地域住民が利用する場所である。

【実施した効果】
多数の住民が利用する公共の場に、この交付金を利用した備品を置くことで、県民税が適切に使われていることや、県民全体で森林を育んでいるということを知ってもらう機会になると考えられる。また、病院を無機質な空間ではなく温かみが感じられる印象にすることにより、より森林や木材に親しみを持ってもらう機会になる。

【実施箇所の今後の管理体制】
桑名市総合医療センターで管理する。

【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】
来院者に対して、「みえ森と緑の県民税」の活用を知ってもらうため、①対象の木製品に県産材活用のシールを添付、②院内のより多くの人の往来のある3か所の掲示板に県産材ポスターを設置、③キッズスペースでは木育の一環として絵本読み聞かせや木材のイベント等実施。

【実施内容に対する住民等の反応】
年間利用24万人の患者様と、そのご家族に見て頂く。一様に「あたたかみのある優しい雰囲気がする」と概ね好評。

平成　30　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	桑名市

番号	区分	事業名
4	基本・特別	病院備品等購入事業
事業費	37,530,000 円(うち交付金 37,120,471 円 うち基金活用 円)	

4. 効率性

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
桑名市総合医療センターにて購入した。

【実施方法の選定理由】
桑名市総合医療センター新病院で整備するものであるため。

【契約方法と落札率または補助率等】
一般競争入札

【契約相手方の選定理由】
一般競争入札の結果より

【事業費の積算根拠】
三重県産材の取り扱い業者からの参考単価を基に予定価格を設定して入札を行った。

5. 公益性（波及度）

【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】
新病院の什器類必要整備数のうち、設置可能な数を把握した。
昨年度の来院者数述べ24万人の来院患者だけでなく、そのご家族等の見舞客に対しても波及効果が期待される。

【管理責任者（森林所有者）への対応】
個人が所有する森林等の整備ではなく、該当しない。

【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】
総合医療センター内で利用する什器類であるため、転用や目的外使用されることは想定されない。

6. 周知実績と今後の周知

【実施前の実績】
「みえ森と緑の県民税」を活用した整備であることを、院内のより多くの人の往来のある3か所の掲示板に県産材ポスターを設置。

【実施中の実績】
物品を購入する事業であり「実施中」に該当する期間がないため実施前後に周知した。

【実施後の実績】
対象の木製品に県産材活用のシールを添付。キッズスペースでは木育の一環として絵本読み聞かせや木材のイベント等実施。

【今後の見込】
引き続き、院内での対象製品の県産材シールや、掲示ポスター配置、広報誌による紹介により、引き続き周知する。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	桑名市
事業名	病院備品等購入事業		

7. 写真

写真１　設置場所： D棟1階　保育室
商品： キッズチェア、テーブル、おままごとキッチン
PRポイント：全て木製品のおままごとキッチン。子供たちが直接触れて遊べる、木育教材の一つです。

写真2　設置場所： D棟1階　保育室
商品： キッズチェア、テーブル、ロッカー、収納棚
PRポイント：チェアから収納棚まで、部屋全体を三重県産スギでトータルコーディネートしており、存在感がある空間。

写真3　設置場所： D棟4階　透析ラウンジ
商品： チェア(EM202)・カフェテーブル(HSK-GB-X)
PRポイント： 三重県産スギとスチールを組み合わせた、デザイン製の高い清潔な家具で、ワンランク上の木材利用空間です。

写真4　設置場所： D棟4階　透析ラウンジ
商品： チェア(EM202)・カフェテーブル(HSK-GB-X)
PRポイント： 全ての商品に補助事業のシールを貼り、来られる全利用者様に向けてPRしています。

写真5　設置場所： D棟3階　健診センター
商品： 三人用肘なしソファ(HSK15059)
PRポイント：敢えて白いクッション材を使用することにより、更にスギの木材の暖かみが目立つよう工夫した待合ソファです。

写真6　設置場所： G棟6～9階　病室
商品： チェア(PU270J)・ティーテーブル(CC370B)
PRポイント：強度をもたせたスギのプレス圧縮材を活用し、デザインはスマートながらも、スギの風合いを感じられる家具です。

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	桑名市
事業名	病院備品等購入事業(納品後に木育教室実施の報告)		

7. 写真

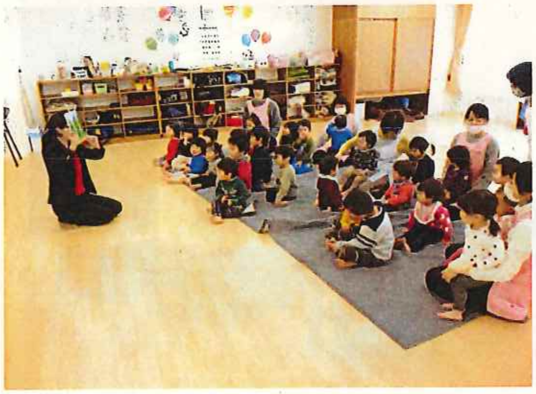


写真１　開催場所:桑名総合医療センターD棟1階　保育室
状況:
3/15の午前に、保育室にて1歳から6歳までの子ども達を対象に、三重の木のお話しをしました。

写真2　開催場所:桑名総合医療センターD棟1階　保育室
状況:
絵本の読み聞かせ「おおきくなあれ」。祖父が植えたスギの木で、男の子の新しいおうちが出来るお話しです。

写真3　開催場所:桑名総合医療センターD棟1階　保育室
状況:
その後は、地元の森林組合さんが持ち込んでくれた木のオモチャで、1時間めいっぱい、おのおの遊びました。

写真4　開催場所:桑名総合医療センターD棟1階　保育室
状況:
ヒノキでできたバランスレールの上を素足で歩き、木の暖かみや柔らかさを楽しんでいます。

写真5　開催場所:桑名総合医療センターD棟1階　保育室
状況:
積み木を積んで手触りを感じてもらいました。1時間では足りない位、ずっと飽きずに遊び続けていました。

写真6　開催場所:桑名総合医療センターD棟1階　保育室
状況:
コマや輪投げ、木製レールに夢中。保育士さんにも「木のオモチャは大人もこどもも楽しめる」と好評でした。

平成30年度みえ森と緑の県民税市町交付金事業　実績

「病院備品等購入事業」（桑名市）

経費内訳

品目	単位	数量	金額
ロッカー収納棚	台	8.0	2,594,000
木製玩具	台	1.0	300,000
下駄箱	台	2.0	640,000
布団収納棚	台	2.0	2,105,000
幼児用収納棚	台	3.0	1,430,000
乳幼児用椅子	脚	42.0	938,000
テーブル	台	104.0	6,775,400
チェア	脚	131.0	6,858,600
ソファー	台	74.0	13,109,000
	小計		34,750,000
	消費税	8%	2,780,000
事業費計			37,530,000
うち交付金			**37,120,471**

平成30年度みえ森と緑の県民税市町交付金事業

3．事前評価がA・B評価の境の事業

⑪ 市庁舎木質化事業
（伊賀市）

議論する事業 ⑪

1） 評価委員の事前評価 （資料2-2 P7-59）

対策区分	事業名	市町名	事前評価の内容		
			有効性	効率性	公益性
4	市庁舎木質化事業	伊賀市	B (3.2)	B (3.0)	**B (3.4)**

2） 評価委員の事前評価と意見

有効性

評価	評価委員のコメント
4	・伊賀市庁舎での活用。
3	・公共施設への県産材利用は評価できる。
2	
1	

効率性

評価	評価委員のコメント
4	
3	・使用木材量に対して金額が過大。
2	
1	

公益性（波及度）

評価	評価委員のコメント
4	・住民の意識醸成につながる点がよい。 ・今後多くの市民の目に触れることから波及効果が期待できる。 ・広い周知が可能。
3	・いかに市民に伝えるかに期待する。
2	
1	

第6号様式（その3）

平成　30　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	伊賀市

番号	区分	事業名
8	基本・特別	市庁舎木質化事業
事業費	55,923,480 円(うち交付金　34,175,000 円 うち基金活用　13,490,151 円)	

1. 事業の目的

多くの市民が利用する市庁舎の木質化に三重県産スギ材を利用することで、木の香る空間作りの意義と三重の森林を持続的に保全管理及び利用を考える機会を作る。

2. 事業実績概要

【事業内容】
新庁舎内装の一部木質化に三重県産材を利用し、三重県産材のぬくもりを来庁者に感じてもらうと共に、三重県産材の利活用促進に関する啓発を図った。

【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】
伊賀市

【補助率等】
交付金全額を木質化該当分に充当。
充当可能上限額:34，175，000円

【箇所数】
2階から4階までの吹き抜け部分、5階議場、1階天井部分

【事業量】
木質化部分

1階天井部分	床面積	280㎡	天井木製ルーバー設置面積	280㎡
吹き抜け部分	床面積	220㎡	吹き抜けルーバー設置面積	72㎡
5階議場	床面積	245㎡	壁面木製ルーバー設置面積	288.8㎡

合計県産材使用材積　約13㎥

【事業実施期間】
平成30年4月2日から平成31年3月29日

【受益者、参加者、利用者数等】
庁舎利用者、議会傍聴者及び施設見学者(小学生等)
庁舎内覧会来場者数1022人

3. 有効性

【実施箇所の選定理由】
市民を中心とする多くの来庁者の目に触れることから、当該箇所を選定した。

【実施した効果】
新庁舎に三重県産材を利用することにより、県産材の利用促進に資する。
来庁した住民やテレビを見た人の目に留まりやすい1階エントランス、吹き抜け、議場などを木質化することにより、木材の良さをPRする。

【実施箇所の今後の管理体制】
市として適正に管理していく。手に触れる場所は少なく破損の可能性は少ないが、経年劣化などに対しては適切に管理を実施していきたい。

【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】
市役所庁舎として活用。庁舎エントランスでパネル展を開催して、森林・林業やみえの森と緑の県民税事業への関心理解を深める。

【実施内容に対する住民等の反応】
内装の木質化について、木のぬくもりを感じることが出来るほか、デザインとしても優れた材料であることを感じられるといった声があった。

平成　30　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	伊賀市

番号	区分	事業名
8	基本・特別	市庁舎木質化事業
事業費	55,923,480 円(うち交付金 34,175,000 円 うち基金活用 13,490,151 円)	

4. 効率性

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
工事業者への委託及び県産材取り扱い業者への発注

【実施方法の選定理由】
①多くの市民が訪れる公共施設内であること。②三重県産材を使用する。③木のぬくもりを感じられる適正な配置であること。

【契約方法と落札率または補助率等】
契約方法:一般競争入札(総合評価型)
落札率:90.73%

【契約相手方の選定理由】
総合評価の評点と、一般競争入札の入札額による。

【事業費の積算根拠】
設計業者の積算と見積による。

5. 公益性（波及度）

【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】
庁舎内覧会来場者数1022人．

【管理責任者（森林所有者）への対応】
個人が所有する森林等の整備ではなく、該当しない

【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】
公共施設整備であるため、転用等が想定されず、該当しない

6. 周知実績と今後の周知

【実施前の実績】
旧庁舎エントランスに設置した新庁舎の模型に登り旗を設置し、事業のPRを行った。
工事現場の仮囲いに事業のロゴを設置し、実施のPRを行った。

【実施中の実績】
新庁舎内覧会の際に特設ブースを設け、本事業のPRを行った。(内覧会来場者数1,022人)

【実施後の実績】
引き続き来庁者に向けて、木製ルーバーの告知をするとともに、定期的にみえ森と緑の県民税事業のパネルを庁舎入口に設置し、事業PRに努める。

【今後の見込】
来庁した際や、ケーブルテレビなどを通じて多くの市民の目に触れる。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	伊賀市
事業名	市庁舎木質化事業		

7. 写真

写真１
庁舎内PR活動

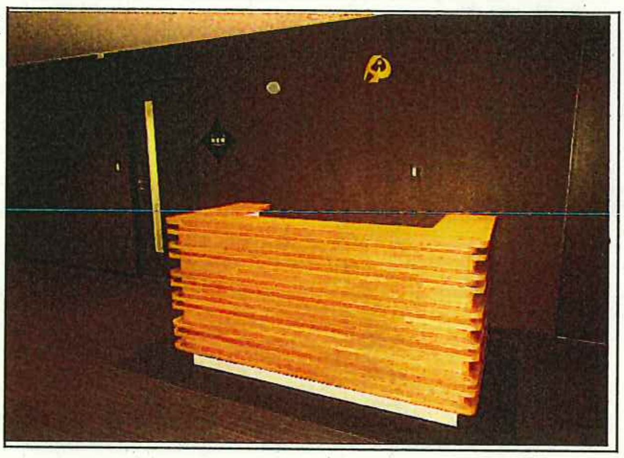


写真2
木質化カウンター

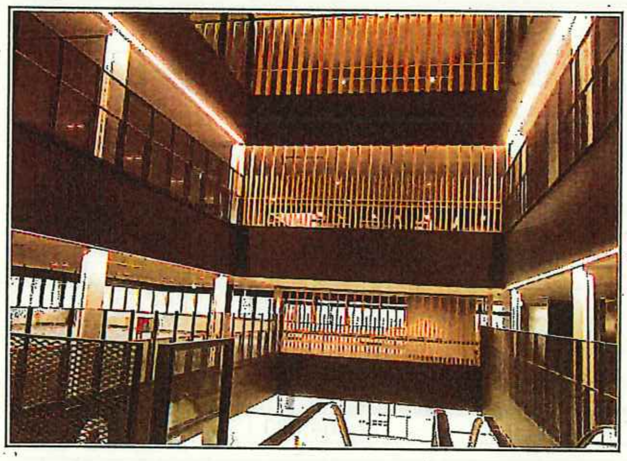


写真3
木製縦ルーバー

写真4
5階議場

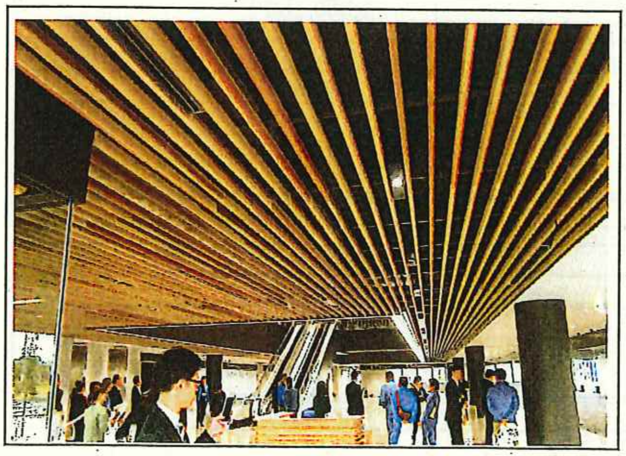


写真5
1階エントランス木質化部分

写真6
天井ルーバー

対策区分	4. 木の薫る空間づくり

市町名	伊賀市

事業名	市庁舎木質化事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
5階議場壁	式	1.00		28,966,500	内訳下記
5階天井	式	1.00		197,230	内訳下記
1階天井木ルーバー	式	1.00		19,764,000	内訳下記
2・3階エントランスホール吹き抜け木製縦ルーバー	式	1.00		1,380,160	内訳下記
4階エントランスホール吹き抜け木製縦ルーバー	式	1.00		690,080	内訳下記
諸経費・税	式	1.00		4,925,510	
事業費				55,923,480	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
5階議場壁	木製ルーバーA	m²	172.80	87,000	15,033,600	
	木製ルーバーB	m²	116.00	106,000	12,296,000	
	木製ルーバーA見切材	m	56.30	21,600	1,216,080	
	自立スクリーンA天端見切材	m	10.80	17,100	184,680	
	計				28,730,360	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
5階議場壁	自立スクリーンB天端見切材	m	3.30	20,000	66,000	
	議場壁見切材	m	9.40	18,100	170,140	
	計				236,140	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
5階天井	見切材	m	12.10	16,300	197,230	
	計				197,230	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
1階天井木ルーバー	木ルーバー	m²	280.00		19,764,000	
	計				19,764,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
2・3階エントランスホール吹抜け木製縦ルーバー	木ルーバー	m	30.40	45,400	1,380,160	
	計				1,380,160	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
4階エントランスホール吹抜け木製縦ルーバー	木ルーバー	m	15.20	45,400	690,080	
	計				690,080	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
諸経費・税		式	1.00		4,925,510	
	計				4,925,510	

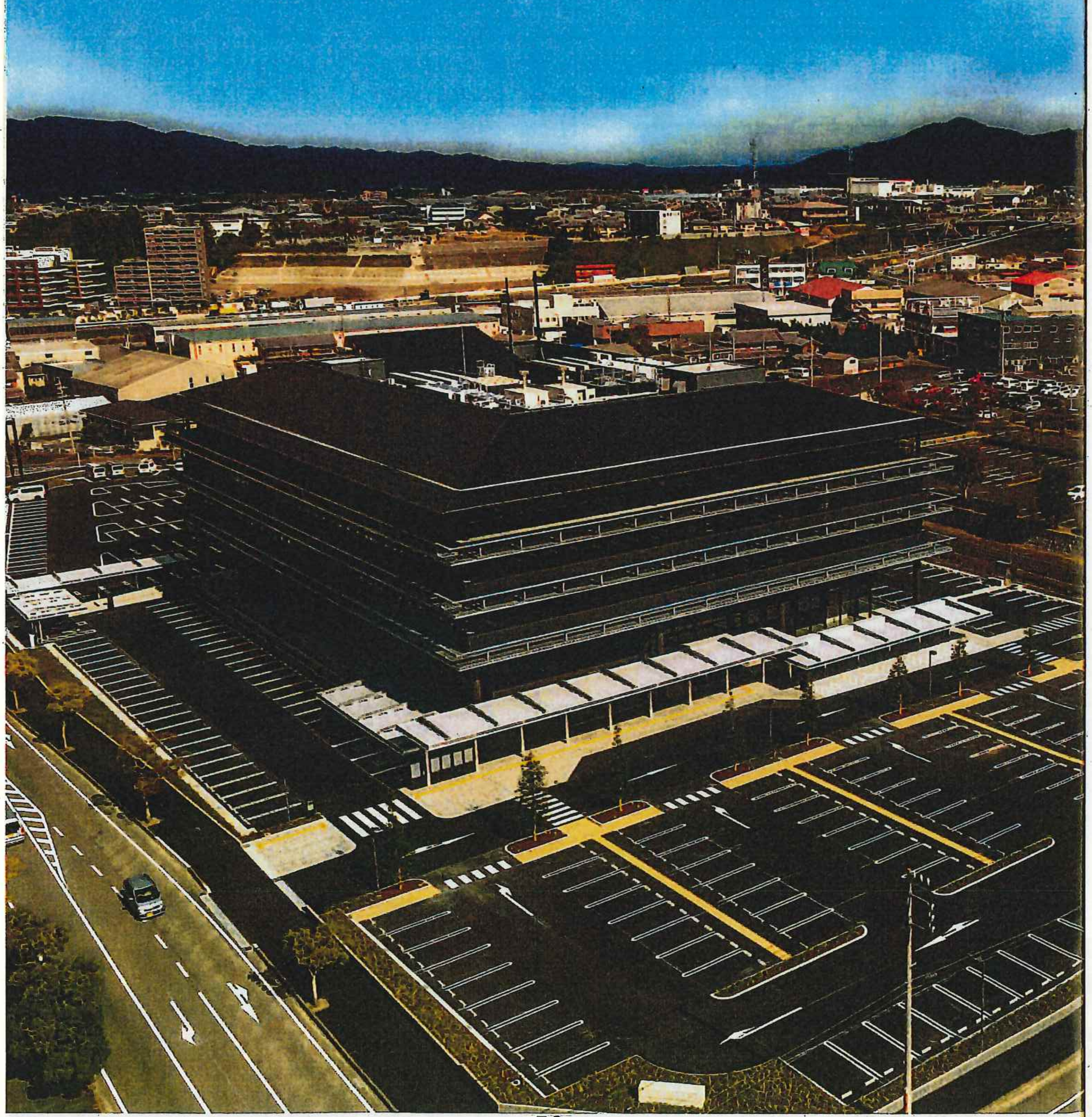
伊賀市庁舎

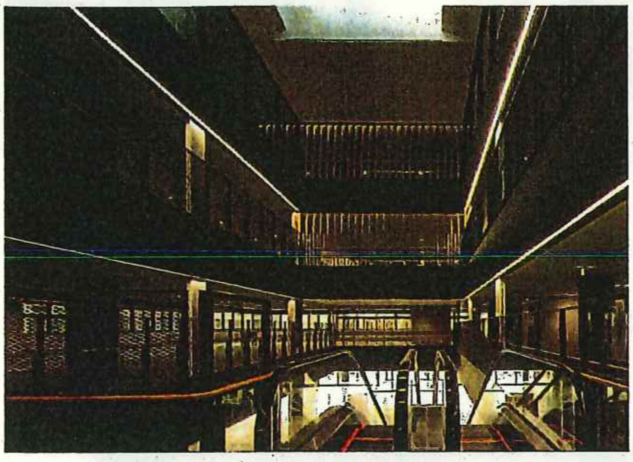
IGA CITY HALL

2019年1月開庁

伊賀市庁舎の基本理念

1. 市民に開かれた、誰もが使いやすい庁舎
2. 市民の安全・安心な暮らしを支える防災拠点となる庁舎
3. 伊賀市の歴史性や文化性、市民の誇りや愛着を受け継いでいく庁舎
4. 社会情勢の変化に対応できる、長寿命で柔軟性の高い庁舎
5. 環境にやさしい庁舎



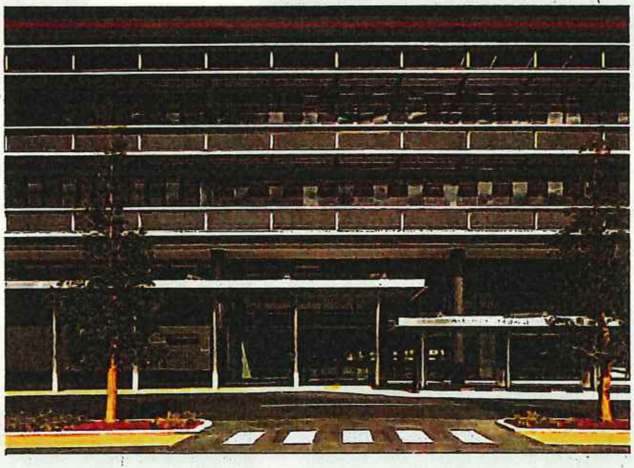


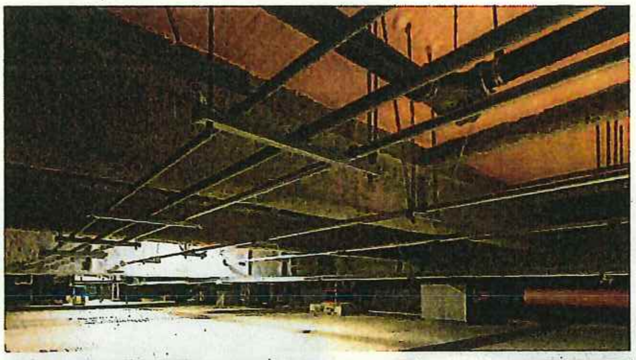
利用しやすい分かりやすい庁舎

1階から4階まで建物中央に吹き抜けを設け、来庁者が庁舎内を一望できる配置が分かりやすい庁舎です。また市民利用の多い窓口を1・2階に集約しています。

質実剛健な庁舎

面積縮減、シンプルな形状でコストに配慮し、長寿命の建物としました。外周全てに大型のひさしを設け、日射調整、メンテナンス通路として使用します。建物中央の吹抜けは換気を促す環境装置の役割を併せ持っています。





防災指令機能を維持する庁舎

地震時に建物の揺れを吸収する免震構造を採用し、建物被害を最小限にします。また、万一ライフラインが途絶えても、自家発電機による電力供給や、水備蓄なども備え、災害復旧活動が継続できる庁舎としています。

01

エレベーター、エスカレーター

3基のエレベーターを設置しました。窓口を集約した1,2階にはエスカレーターも設置しました。

02

市民スペース

1階エントランスに市民スペースを設けました。休憩コーナーや市民ギャラリーなどにご利用いただけます。

03

ユニバーサルレイアウト

執務室のデスクは、規格を統一し大型の共用デスクとすることで、組織変更などの際でもレイアウトの変更を行わないため、コスト縮減が図れます。

04

地元産木材を使用

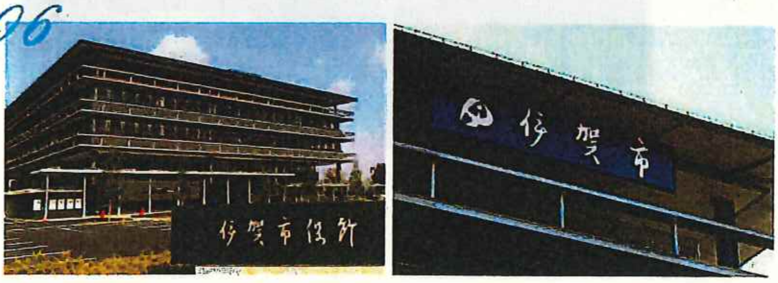
一階エントランスの天井や吹抜け周りなどに、みえ森と緑の県民税を活用して伊賀市産木材を使用しました。

05

みんなのトイレ、ベビー休憩室

だれもが使用しやすいように、多目的ボード、子ども用便器、オストメイト対応流しなどを設置しています。1階にはベビー休憩室もあります。

06



芭蕉さんの真筆を用いた看板

庁舎北側と南側駐車場入口に松尾芭蕉の書簡より転載した文字を使った看板を設置しています。芭蕉生誕の地を広くアピールします。

07

議場

内装に伊賀市産木材を使用しています。傍聴席は50席設けています。

08

天井ボードのない執務室

執務室の天井は、ボードを張らない直天井仕上げです。コスト縮減とメンテナンス性を向上させています。

09

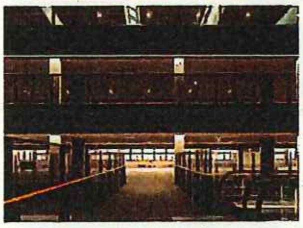
相談スペース

相談者のプライバシーに配慮し、間仕切りタイプのカウンターや個室の相談室を設けました。

10

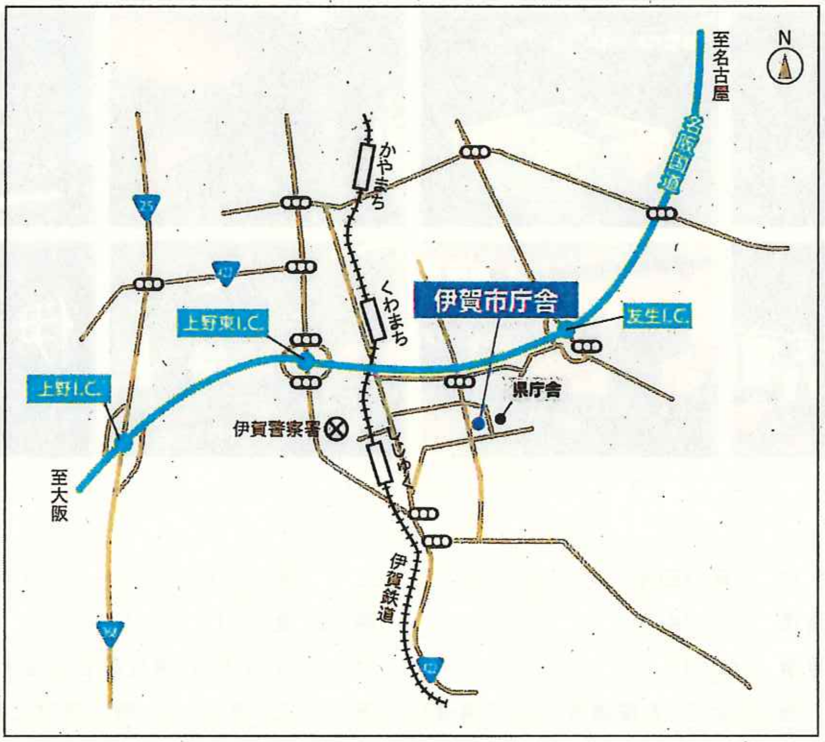
LED照明

全館LED照明とし、明るさセンサー、人感センサーの設置によりムダな消費電力を削減します。



伊賀市庁舎概要

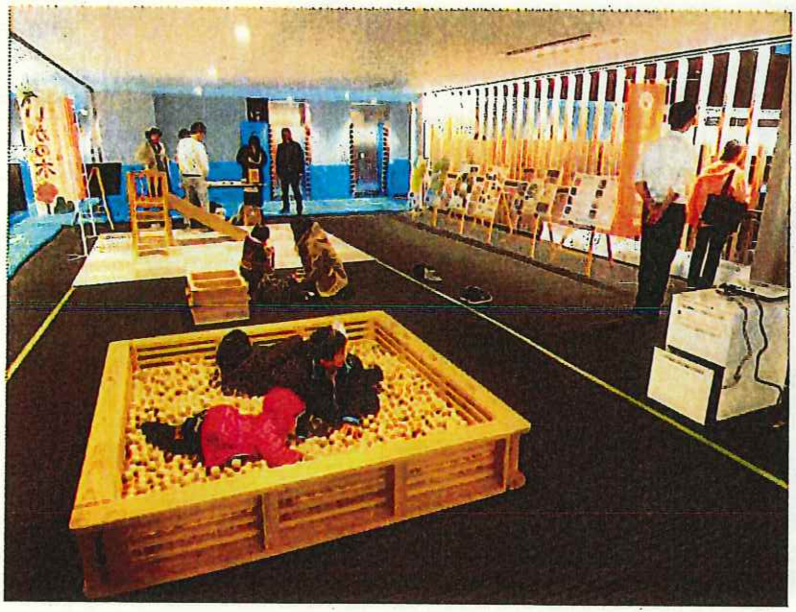
所在地	伊賀市四十九町3184番地	工期	2017年3月～2018年11月
敷地面積	17,104.5㎡	建設費	5,137,595,640円
延べ面積	14,288.7㎡	設計	(株)日建設計名古屋オフィス
構造	鉄骨造(免震構造　CFT構造)	施工	鴻池・山一特定建設工事共同企業体
階数	地上5階(GL+25.0m)		



伊賀市
Iga City

伊賀市財務部管財課

〒518-8501　三重県伊賀市四十九町3184番地
TEL 0595-22-9610　FAX 0595-24-2440



伊賀市新庁舎内覧会
木製遊具

伊賀市新庁舎内覧会
木製遊具

伊賀市新庁舎内覧会
いがグリオ

伊賀市新庁舎内覧会
会場全景

伊賀市新庁舎内覧会
パネル展示

伊賀市新庁舎内覧会
パネル展示

平成30年度みえ森と緑の県民税市町交付金事業

3．事前評価がA・B評価の境の事業

⑫ 森林公園等環境活用整備事業
（名張市）

議論する事業 ⑫

1） 評価委員の事前評価　（資料2-2　P7-13）

対策区分	事業名	市町名	事前評価の内容		
			有効性	効率性	公益性
5	森林公園等環境活用整備事業	名張市	**A (3.5)**	B (3.2)	B (3.2)

2） 評価委員の事前評価と意見

有効性

評価	評価委員のコメント
4	・住民参加型。 ・地域住民自ら整備に関わるように促している。 ・小学校の森林環境教育に活用された。地域づくり組織とが主体となって実施したため地域の理解促進が図られた。 ・地域づくり組織からの意見等を参考に選定。
3	・地域住民による活動を支援している点を評価する。
2	
1	

効率性

評価	評価委員のコメント
4	・住民が担うことで結果的に効率的な管理が実現できている。
3	・地域づくり組織が担っているため効率的である。
2	
1	

公益性（波及度）

評価	評価委員のコメント
4	地域づくり組織との連携により公益性の高い事業になっている。
3	
2	
1	

第6号様式（その3）

平成　30　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市

番号	区分	事業名
4	基本	森林公園等環境活用整備事業
事業費	600,000 円(うち交付金 600,000 円 うち基金活用 0 円)	

1. 事業の目的

市民の憩いの場である森林公園などを地域住民らによるボランティアで整備することにより、住民の森林や緑に対する理解をさらに深めるとともに、自然に親しむ豊かな生活環境を作る。

2. 事業実績概要

【事業内容】
①東山ふれあいの森：多くの住民が自然に親しむ公園として利用できるよう、下草刈り、倒木等の整理及び遊歩道整備を実施した。
②桔梗が丘10号公園：森林環境教育や地域の植樹イベントなどに利用できるよう、ナラ枯れなどによる枯れ木の伐採や遊歩道整備などを行った。また、自然に親しむ取組みとして、地域住民約80名が参加し、植樹を行った。

【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】
地域づくり組織（ひなち地域ゆめづくり委員会、桔梗が丘自治連合協議会）

【補助率等】
定額補助（上限300千円）（東山ふれあいの森、桔梗が丘10号公園）

【箇所数】
2箇所

【事業量】
東山ふれあいの森：17.08ha　遊歩道・駐車場の整備、立木の除去・剪定、除草、注意喚起看板設置
桔梗が丘10号公園：3.2ha　枯れ木の伐倒、植樹イベントでの植樹、遊歩道の整備

【事業実施期間】
平成30年5月～平成31年3月

【受益者、参加者、利用者数等】
整備によって森林に親しむ豊かな生活環境が向上する地域住民：
比奈知地域：人口 1,267 人、592 世帯　桔梗が丘：人口 13,773 人、5,784 世帯（人口統計資料）

3. 有効性

【実施箇所の選定理由】
・地域づくり組織からの補助申請箇所について、職員が書類、聞き取り、現地確認等により現状を確認し、実施の必要性を検討して交付を決定している。

【実施した効果】

公園整備を住民主体の地域づくり活動の一環として実施することにより、愛着や親しみが生まれ、それによって優しく公園を利用し、市民がこころ豊かな生活が送れるようになった。

【実施箇所の今後の管理体制】
今回の整備によって、身近な森林公園の整備の必要性を再認識しており、今後も引き続き、地域づくり組織によって実施後の状況が保たれるよう管理される。

【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】
東山ふれあいの森は森林環境教育推進事業で桔梗が丘小学校の森林環境教育に活用された。また、森林公園が整備されたことにより、地域住民が公園をさらに活用し易くなった。

【実施内容に対する住民等の反応】
地域づくり組織からは、「今回の補助によって、イベントや整備活動を通じて地域住民の交流を深めることができた。」「子どもたちの森林環境教育に活用することができ、やりがいを感じた。」との声をいただいている。

平成　30　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市

番号	区分	事業名
4	基本	森林公園等環境活用整備事業
事業費	600,000 円(うち交付金　600,000 円 うち基金活用　0 円)	

4. 効率性

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
・補助事業

【実施方法の選定理由】
地域住民が自ら整備することにより、地域で親しまれ、使いやすい森林公園になる。また、地域住民が公園に愛着を持つことで、より公園を大切にしていくきっかけとなる。

【契約方法と落札率または補助率等】
・補助率：定額補助（森林公園等を地域づくり組織が自ら整備し、維持し、又は管理する事業に要する経費）

【契約相手方の選定理由】
補助事業であるため、該当しない。

【事業費の積算根拠】
・森林公園等を地域づくり組織が自ら整備し、維持し、又は管理する事業に要する経費を補助対象としており、職員が書類により支出内容を確認している。

5. 公益性（波及度）

【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】
整備によって森林に親しむ豊かな生活環境が向上する地域住民：
比奈知地域：人口 1,267 人、592 世帯　桔梗が丘：人口 13,773 人、5,784 世帯（人口統計資料）

【管理責任者（森林所有者）への対応】
土地の所有者が名張市であり、地域づくり組織との調整については問題はない。

【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】
実施箇所は市の所有地や都市公園のため、転用等の可能性は無い。

6. 周知実績と今後の周知

【実施前の実績】

【実施中の実績】
「広報なばり」8月号に掲載した。
ラジオ番組「マイタウンなばり」で取り組みについて放送した

【実施後の実績】

【今後の見込】
平成31年度の「広報なばり」で実績を掲載予定。
ラジオ番組「マイタウンなばり」で放送を予定。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名	名張市

事業名	森林公園等環境活用整備事業

7. 写真

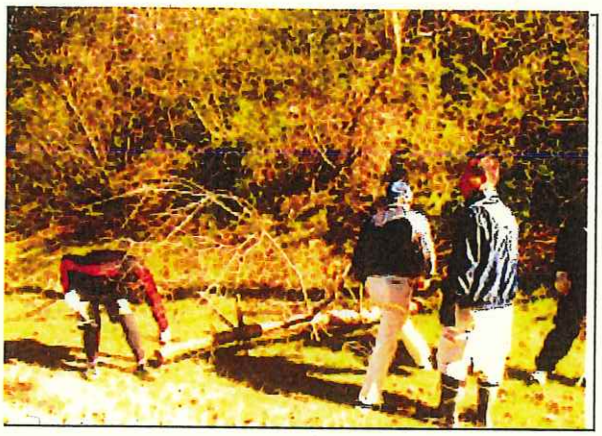


写真1
伐採作業【東山ふれあいの森】

写真2
注意喚起看板設置【東山ふれあいの森】

写真3
植樹後状況【桔梗が丘10号公園】

写真4
除草作業【桔梗が丘10号公園】

写真5

写真6

森林公園等環境活用整備事業（名張市）

公園名	区分	活動内容
東山ふれあいの森	活動内容	除草作業、伐採作業、看板設置作業（まむし注意）、植栽作業（ドウダンツツジ）　5回　延べ人数78人
	支出内訳	購入（刈払機、電動ドライバー、注意看板等資材、燃料代、替え刃、ドウダンツツジほか）
桔梗が丘10号公園等	活動内容	除草作業、伐採作業、遊歩道整備作業　スタッフ20名　15回　「桔梗が丘ほっとまちフェスタ」（11／4）で植栽　80名参加
	支出内訳	購入（刈払機、ヘッジトリマー、チェンソー、替え刃、植栽用資材、燃料、苗木（トチノキ、ミツバツツジ、ヤマボウシ、オミナエシ等））